

令和元年度

教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検及び評価報告書

安曇野市教育委員会

## 安曇野市教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検及び評価について

### 1 目的

安曇野市教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検及び評価（以下「点検・評価」という。）は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条の規定に基づき実施したものです。

#### (参考)

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

### 2 点検評価の対象

第2次安曇野市総合計画 基本構想 前期基本計画 [平成30年度～令和4年度] に位置付けられた重点施策に関連する30事務事業において、令和元年度に実施した事務事業を点検評価の対象としました。

### 3 自己評価の基準

自己評価の基準については、概ね下記の基準によります。

評価区分	評価にあたっての考え方
A	優れた取組が多く、十分成果が上がっている
B	優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている
C	一定の成果は上がっているものの、課題もあり、改善の必要がある
D	十分な成果が上がっておらず、改善の余地が多く、抜本的な見直しが必要である

### 4 点検・評価にあたり、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第2項に規定する教育に関し学識経験を有する者として、以下の方を委嘱しました。

前安曇野市社会教育委員	細田 利章 氏
前安曇野市社会教育委員	平田 米子 氏
安曇野市社会教育委員	筒井 年恵 氏

令和元年度 安曇野市教育委員会事務事業点検・評価項目一覧

第2次安曇野市総合計画 前期基本計画との関係	事務 事業 No	頁	評価対象事務事業	所管課	自己評価	
					R元	H30
基本目標5 学び合い 人と文化を育むまち  5-1 子どもが健やかに育つまち 5-1-1 学校教育の充実 5-1-2 青少年の	1	3	いじめ・不登校対策事業	学校教育課	B	B
	2	5	教育支援センター運営事業	学校教育課	B	B
	3	7	就学相談事業	学校教育課	C	C
	4	8	教育指導員・教育相談員の配置事業	学校教育課	B	A
	5	9	学校支援職員及びスクールソーシャルワーカー等の配置・派遣事業	学校教育課	A	A
	6	11	学校 ICT 事業	学校教育課	B	B
	7	13	英語教育の推進事業	学校教育課	C	C
	8	14	コミュニティスクール事業	学校教育課	C	C
	9	16	中学生議会事業	学校教育課	B	B
	10	18	通級指導教室運営事業	学校教育課	B	
	11	19	入学準備金貸付事業	学校教育課	C	C
	12	20	学校安全対策事業	学校教育課	B	B
	13	21	小・中学校施設改修事業	学校教育課	B	B
	14	22	給食事業	学校教育課	B	B
	15	23	青少年健全育成事業	生涯学習課	B	B
	16	24	生涯学習講座実施事業	生涯学習課	B	B
	17	25	社会教育団体支援事業	生涯学習課	C	C
	18	26	放課後・家庭教育推進事業	生涯学習課	B	B
	19	27	児童館運営事業	生涯学習課	C	C
	20	28	中央公民館事業	生涯学習課	B	B
	21	29	交流学习センター等事業	文化課	B	B
	22	30	図書館活動の推進事業	文化課	B	B
基本目標1 いきいきと健康に暮らせるまち 1-2一人ひとりが大切にされるまち 1-2-4 人権の尊重	23	32	人権教育推進事業	生涯学習課	B	B
	24	33	人権集会所整備事業	生涯学習課	B	
基本目標5 学び合い 人と文化を育むまち 5-2 生涯を通じて学び合うまち 5-1-2 スポーツ活動の充実	25	34	体育団体等支援事業	生涯学習課	C	C
	26	35	スポーツ振興事業（スポーツ教室等開催事業）	生涯学習課	B	B
基本目標5 学び合い 人と文化を育むまち  5-3 文化を創り育むまち 5-3-1 芸術文化活動の推進	27	36	文化芸術振興事業	文化課	B	B
	28	37	諸団体との協働事業	文化課	B	B
	29	39	財政支援団体への補助事業	文化課	B	B
	30	40	博物館・美術館等の管理運営事業	文化課	B	B
■学識経験者による個別の事務事業に対する意見、提言等	-	41				

事務事業	No.1	事務事業名： いじめ・不登校対策事業	R 元年度決算額	10 千円
事業の目的	いじめ・不登校の克服に向けて、学校・地域・関係機関が連携を図り、いじめ等の防止及び早期発見・早期対応を行う。			
事業内容	いじめ不登校問題対策連絡協議会、不登校対策推進チーム連絡会において、児童、生徒のいじめ・不登校等の調査及び指導方法や発生防止の研究を行い、学校内中間教室担当者等で月1回集って研修や事例検討を通し、よりよい児童・生徒支援が行えるよう学校間の経験、ノウハウの共有と連携構築に努めた。			
達成状況	<p>1 会議・連絡会等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ不登校問題対策連絡協議会（いじめ防止対策推進法制定により、前いじめ等対策委員会を発展的解消し設置）</li> <li>・不登校対策推進チーム連絡会</li> </ul> <p>2 会の構成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ不登校問題対策連絡協議会委員（任期2年） 教育長、福祉関係者2名、警察関係者1名、PTA関係者1名、教育関係者6名、行政関係者2名、学識経験者1名 計14名</li> <li>・不登校対策推進チーム連絡会構成員 市内17小中学校 校内中間教室担当・小中連携不登校支援担当等 市スクールソーシャルワーカー、県スクールソーシャルワーカー 市教育支援センター職員、校長会代表（登校支援担当） 令和元年度の構成 計28名</li> </ul> <p>3 協議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ不登校問題対策連絡協議会 学校及び地域におけるいじめ等の状況に関すること 学校、地域、関係機関等によるいじめ等の防止の取り組みに関すること 上記の他、いじめ等の防止に関すること</li> <li>・不登校対策推進チーム連絡会 事例検討、学校での対応好事例・失敗例などの共有 不登校や配慮を要する児童・生徒支援のための研修 各校における配慮を要する児童・生徒の情報共有（中学校区）</li> </ul> <p>4 成果</p> <p>市内各校の状況、関係機関における協力方法や事例検討することで、各校と関係機関で可能な支援を学び合い、助言しあうことにも取り組んだ。</p>			

事業の課題及び方向性	<p>いじめ・不登校の問題は全国的な課題であり、学校教育においても重要事項である。これらの対応や解決は、学校だけでは時に困難であり、各機関の連携が必要不可欠となる。定期的に各機関の代表や担当が集まり、情報共有と意見交換を行うことは即時対応が必要となる際にも重要なため、継続していく。いじめ・不登校の定義を再確認、未然防止・早期対応の観点から、きめ細やかな各機関との連携の強化を目指す。</p>	
自己評価	B	

事務事業	No.2	事務事業名： 教育支援センター運営事業	R 元年度決算額	9,941 千円																								
事業の目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不登校の児童生徒を対象に、学校復帰に向けての指導及び援助を行なうため</li> <li>・学校生活等で課題、困難を抱える子ども達や保護者、学校関係者を支援するため</li> </ul>																											
事業内容	<p>安曇野市教育支援センター設置条例に基づき、教育支援センターを設置。</p> <p>中間教室（適応指導教室）は不登校または不登校傾向にある児童・生徒の学校復帰に向けた指導・支援を行う。教育相談室は不登校、引きこもり、発達障がい、学校生活、進路、子育て全般、しつけ等についての教育相談活動や検査を実施。</p>																											
達成状況	<p>【中間教室（適応指導教室）】</p> <p>5カ年の在籍児童生徒数の推移（単位：人）</p> <table border="1" data-bbox="504 622 1273 869"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>H27</th> <th>H28</th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>H31 (R 元)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学生</td> <td>11</td> <td>14</td> <td>13</td> <td>11</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>中学生</td> <td>23</td> <td>19</td> <td>14</td> <td>10</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>年度計</td> <td>34</td> <td>33</td> <td>27</td> <td>21</td> <td>38</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 31 年度の通室者 38 名のうち、1 カ月以上の定期利用者は 33 名。定期利用者のうち、10 名が学校復帰。学校と中間教室（適応指導教室）を併用している児童・生徒が多く、中間教室（適応指導教室）で自己肯定感を高め、エネルギーを溜めることができたと評価できる。</li> <li>・不登校および不適応傾向の児童・生徒にとって、学校との中間的な場所としての機能が学校及び保護者に認められ、不登校等の児童・生徒への支援の選択肢として定着しつつある。</li> <li>・福祉課子ども発達支援相談室職員に来室してもらい、心理や作業療法の専門的観点から助言を受けることで定期的な指導の見返しを行う。</li> </ul> <p>【教育相談事業】</p> <p>「安曇野市における教育相談体制の整備と強化を図るとともに、地域における関係機関、関係団体との連携、共同体制を構築していく」ことを重点とし、時代のニーズに応じた運営を目指してきた。</p> <p>＜連携してきた関係機関、団体＞</p> <p>小中学校・特別支援教育コーディネーター連絡会・家庭児童相談室・子ども発達支援相談室・特別支援学校教育相談員・適応指導教室・就学相談調査員・障がい者総合支援センターあるぷ・その他</p> <p>※教育相談室の支援だけでは効果が不十分と考えられる場合、相談者の了解や要請により、上記関係機関、団体と連携して相談業務を行った。「チーム支援」の意識を深めるとともに、新たな視点や発想の基で、課題解決に向けた取り組みが可能となってきている。</p> <p>＜教育相談の状況＞</p> <p>(1) 相談・来室者実人数 230 人</p>				年度	H27	H28	H29	H30	H31 (R 元)	小学生	11	14	13	11	17	中学生	23	19	14	10	21	年度計	34	33	27	21	38
年度	H27	H28	H29	H30	H31 (R 元)																							
小学生	11	14	13	11	17																							
中学生	23	19	14	10	21																							
年度計	34	33	27	21	38																							

(2) 相談方法別相談件数(面談1回で複数人の面談を行なう場合あり)

来室による面談 111 件、電話相談 62 件、学校訪問 57 件

(3) 相談対象者の年齢別相談回数(実質的な相談件数)

来訪者	件数	来訪者	件数	来訪者	件数	来訪者	件数
乳幼児	41	小学生	146	中学生	31	高校生	8
保護者	2	教師	1	その他	1	合計	230

(4) 相談の主訴(1件の相談に関して複数の主訴あり)

性格行動 179 件、不登校 38 件、いじめ 4 件、発達障がい 45 件、知的障がい 20 件、心身症 2 件、学校・学級経営 13 件、学校生活・園生活 199 件 等

※平成 27 年度から、学校や保護者の要請により心理発達検査(WISC-IV)も実施。その結果を基に、学校職員や保護者等に説明の機会を持つようにしたこと  
で、指導・支援の具体的な内容や方法、家庭生活でのわが子への具体的な接し  
方、子育てのポイント等を共有して実践することに繋がっている。子ども支援課  
とも連携して、認定子ども園の園長や保育士に対し、WISC 検査実施を通して園児  
への支援方法についての助言を行う。

事業の課題  
及び方向性

スクールソーシャルワーカー・不登校支援コーディネーターと情報共有を図り、在籍校と、各校関係者との連携、関係機関との連携構築を更に進める。

今後は、支援を要する子どもに対する一貫した継続的支援体制が増々問われる。

部局を超えた連携支援が必須であるという共通認識のもと、更なる共同体制の構築に資していくことは課題(例:就園前、就園時から小学校入学後への移行支援)。特に中学卒業前後の支援については、県のスクールソーシャルワーカーや相談員とも協力し、糊代を厚くして対応したい。

自己評価

B

事務事業	No.3	事務事業名： 就学相談事業	R 元年度決算額	2,232 千円																																	
事業の目的	安曇野市心身障がい児就学相談委員会では、知的障がい、その他心身障がいの疑いのある児童等の調査、審査（入級、退級についての審査）および就学の相談を行う。																																				
事業内容	1 安曇野市心身障がい児就学相談委員会（委員 18 名） 年 3 回開催 2 5 地区別就学相談小委員会（小委員のべ数 83 名） 年間 12 回開催 3 小委員会に向け資料作成のため、調査員が幼稚園、認定こども園等にて観察と相談（観察園児のべ数 168 名） 年 2 回実施 4 平成 30 年度就学相談を受け平成 31 年度に小・中学校 1 年に入学した児童・生徒の経過観察（小 1 児童 66 名、中 1 生徒 55 名、計 121 名） 年 1 回実施																																				
達成状況	(判定数) <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">対象者</th> <th rowspan="2">人数</th> <th colspan="3">判定結果</th> <th rowspan="2">判定と異なる就学者</th> </tr> <tr> <th>通常学級</th> <th>特別支援学級</th> <th>特別支援学校</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>幼児</td> <td>87</td> <td>30</td> <td>51</td> <td>6</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>児童</td> <td>133</td> <td>7</td> <td>119</td> <td>7</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>生徒</td> <td>17</td> <td>2</td> <td>15</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>237</td> <td>39</td> <td>185</td> <td>13</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>				対象者	人数	判定結果			判定と異なる就学者	通常学級	特別支援学級	特別支援学校	幼児	87	30	51	6	0	児童	133	7	119	7	0	生徒	17	2	15	0	0	計	237	39	185	13	0
対象者	人数	判定結果					判定と異なる就学者																														
		通常学級	特別支援学級	特別支援学校																																	
幼児	87	30	51	6	0																																
児童	133	7	119	7	0																																
生徒	17	2	15	0	0																																
計	237	39	185	13	0																																
事業の課題及び方向性	1 就学判定数が平成 30 年度より 50 名増となっている。今後、早期スタートで年中からの相談も増えることが予想される。委員会前後の事務量や調査員の相談業務量の増加が著しく、相談日調整が難しいため、特に園児の就学相談の早期スタートも検討する必要がある。 2 平成 30 年度～令和元年度で、市内全認定子ども園で、子ども発達相談室を中心に年中児のスクリーニングを実施した。福祉課・健康推進課・子ども支援課・学校教育課などが、それぞれに受け持つことを、今できる連携の中で最善を尽くしてきているが、さらに日常的な連携が図れるよう、努めたい。																																				
自己評価	C																																				



事務事業	No.4	事務事業名： 教育指導員・教育相談員の配置 事業	R元年度決算額	－ 千円
事業の目的	各学校における学力・体力向上をはかると共に教育相談に対応し、安定した学校運営が行えるようにする。			
事業内容	(1) 教育全般について各学校・各機関との連携、支援、教育相談 (2) 学力・体力向上にむけての取組 (3) 就学相談 (職員体制：教育指導員4名 教育相談員1名)			
達成状況	<p>(1) 教育全般について各学校・各機関との連携、支援、教育相談</p> <p>① 学校と教育指導員との懇談会 4、5月に実施。 市内17校</p> <p>② 保護者や学校の相談対応</p> <p>③ 教育支援センターでの教育相談対応</p> <p>(2) 学力・体力向上に向けての取組</p> <p>① 安曇野市学力・体力の状況の整理と分析、体力向上に向けた新しい運動プログラムの検討</p> <p>② 組織及び運営</p> <p>ア 学力向上推進委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全国学力・学習状況調査の結果を分析・考察し、市の状況を報告書にまとめると共に、次年度へ向けた授業改善にかかわる提言をした。</li> </ul> <p>イ 体力向上推進委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全国体力・運動能力、運動習慣等調査や、新体力テストの結果を分析し、公表すると共に、体力向上にむけた実践を公表するとともに、体づくり、運動遊びの研修として、長野県版運動プログラム普及事業の実施。各学校に訪問し、体づくり・運動遊びや日常の運動などについて支援。</li> </ul> <p>ウ 部活動運営委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ スクールサポート事業として、健全な部活動のあり方について検討、各校の課題解決に向けて支援。</li> </ul> <p>(3) 就学相談</p> <p>① 心身障がい児就学相談委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小・中学校入学生及び在学中の児童・生徒に関わる、適切な就学や学びの場の検討。</li> </ul>			
事業の課題及び方向性	<p>1 学力・体力向上については、実践評価考察と共に安曇野市の特徴や今後の実践課題を整理した。</p> <p>2 就学支援および教育相談については、児童・生徒の観察、保護者の意向などを確実に捉え、学校や各機関との連携を図りながら、児童・生徒の現状や成長について丁寧に捉え、学びの場の見直しを含め対応していく。</p>			
自己評価	B			

事務事業	No.5	事務事業名： 学校支援員及びスクールソーシャルワーカー等の配置・派遣事業	R元年度決算額	140,859千円																																														
事業の目的	障がい等により特別な支援を要する児童・生徒の、よりよい学校生活を送るための加配職員（支援員）を配置し、学習や学校生活の支援を行う。また、福祉や医療等との連携を鑑み、専門職を各校に派遣し、指導方法の相談・助言を行い健やかな成長を支える。																																																	
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の要望と実態等を鑑み、各種支援員等の配置。</li> <li>・教員や家庭全体への支援策として、スクールソーシャルワーカー、不登校支援コーディネーター、スクールカウンセラー、障がい児等指導相談員（学校心理士・作業療法士・言語聴覚士）を派遣し、相談事業充実を図る。</li> </ul>																																																	
達成状況	<p>○成果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・障がい児支援員は、特別支援学級や普通学級の仲間と行う授業等の活動時に、特にその児童・生徒の特性に応じた学級内での支援を行う。子どもが安定して活動に参加し、自己実現の経験が数多くできるよう努め、支援を要する児童生徒や集団の生活の安定に大きく寄与している。</li> <li>・各校配置の中間教室支援員他、スクールソーシャルワーカー、不登校支援コーディネーター及び市教育支援センター等、不登校支援に携わる職員が不登校傾向の子どもの支援の中核となり、関係機関と連携して登校に繋げる活動を行っている。</li> </ul> <p>【配置・派遣状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>職名</th> <th>延べ人数</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="8">賃金</td> <td>医療支援員（看護師）</td> <td>2</td> <td>（小学校）</td> </tr> <tr> <td>障がい児支援員</td> <td>17</td> <td></td> </tr> <tr> <td>特別支援学級支援員</td> <td>21</td> <td></td> </tr> <tr> <td>学習向上支援員</td> <td>7</td> <td></td> </tr> <tr> <td>中間教室支援員</td> <td>14</td> <td></td> </tr> <tr> <td>小中連携不登校支援員</td> <td>3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>スクールソーシャルワーカー 不登校支援コーディネーター</td> <td>2</td> <td>（巡回型）</td> </tr> <tr> <td>小計①</td> <td>66</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">謝礼</td> <td>スクールカウンセラー</td> <td>7</td> <td>（巡回型）</td> </tr> <tr> <td>障がい児等指導相談員</td> <td>3</td> <td>（巡回型）</td> </tr> <tr> <td>放課後学習指導室支援員</td> <td>41</td> <td></td> </tr> <tr> <td>小計②</td> <td>51</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>合計①+②</td> <td>117</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>○県スクールソーシャルワーカー事業の活用</p> <p>支援を要する児童・生徒や家庭が増加傾向にある。学校や各機関との連携を深めるため、県のスクールソーシャルワーカー1名を安曇野市専属として派遣。福祉や医療との連携を含めた支援を充実させるよう努めている。</p>					職名	延べ人数	備考	賃金	医療支援員（看護師）	2	（小学校）	障がい児支援員	17		特別支援学級支援員	21		学習向上支援員	7		中間教室支援員	14		小中連携不登校支援員	3		スクールソーシャルワーカー 不登校支援コーディネーター	2	（巡回型）	小計①	66		謝礼	スクールカウンセラー	7	（巡回型）	障がい児等指導相談員	3	（巡回型）	放課後学習指導室支援員	41		小計②	51			合計①+②	117	
	職名	延べ人数	備考																																															
賃金	医療支援員（看護師）	2	（小学校）																																															
	障がい児支援員	17																																																
	特別支援学級支援員	21																																																
	学習向上支援員	7																																																
	中間教室支援員	14																																																
	小中連携不登校支援員	3																																																
	スクールソーシャルワーカー 不登校支援コーディネーター	2	（巡回型）																																															
	小計①	66																																																
謝礼	スクールカウンセラー	7	（巡回型）																																															
	障がい児等指導相談員	3	（巡回型）																																															
	放課後学習指導室支援員	41																																																
	小計②	51																																																
	合計①+②	117																																																

事業の課題及び方向性	<p>・障害者差別解消法を受け、合理的配慮が求められている中、社会状況や家庭環境の変化も伴い、環境が子ども達に与える影響も複合・複雑化している。それぞれの子どもを持つ背景や課題に対して、関係者が連携して子ども達の成長を支える必要がある。そのためには支援を行う職員配置についても、学校から切実な要望があり、その重要性が増している。このことから、当事業は継続することと共に、一層の充実を図っていかなくてはならない。</p> <p>同時に、学級での合理的配慮を推進する必要がある。個と集団の両面からの支援と学びを掛け合わせ、児童・生徒全体で力の底上げができるよう、学校全体での環境調整等の工夫と努力が一層求められる。</p>
自己評価	A

事務事業	No.6	事務事業名： 学校 ICT 事業	R 元年度決算額	106,080 千円
事業の目的	<p>情報化が進む社会（Society5.0）で不可欠である ICT 機器に等しく触れる機会を設け、どの児童・生徒にとっても理解しやすい授業となるよう ICT 機器を活用し、子ども達の「生きる力」を育む学校教育を推進する。</p> <p>慢性的に飽和状態にある教員の業務のうち、校務事務（学籍管理・出席管理）を ICT の活用により効率化を進め、授業や子どもたちと向き合う時間が増やせるような環境を整備する。</p>			
事業内容	<p>教育用・校務用のパソコン等の情報機器について、セキュリティに配慮をした更新・整備を行う。</p> <p>新学習指導要領に適合した授業の推進を支援するため、文部科学省が示す「第3期教育振興基本計画」と「GIGA スクール構想」に基づいた環境整備と情報機器の導入を行う。</p> <p>校務支援システムの導入と積極的活用により、教員の事務処理に係る負担軽減を図り、授業の質の向上への側面的支援を行う。</p>			
達成状況	<p>【小・中学校パソコン等更新】</p> <p>豊科・三郷地域の小・中学校7校の情報機器の更新を行った。（機器の仕様は平成30年度に準拠）</p> <p>今後、令和元年12月に国が示した「GIGA スクール構想」に基づいて、1人1台の学習用端末の調達とその使用を担保するネットワーク環境の整備を進める。（令和2～3年度）そのため、令和3年度以降に更新時期を迎える学校の校務用パソコンは、スケジュールの見直しを実施し、長期の使用を想定した性能とコストパフォーマンスに配慮した仕様により調達する。</p> <p>【図書館システム】 ※蔵書管理、貸出・返却処理</p> <p>令和元年度にシステム更新を実施した。（導入業者：エプソン販売）</p> <p>従来と同じシステムメーカー（システムインナカゴミ）を選定し、導入初期の不具合の解消に努めた。（5年間のリース契約）</p> <p>【校務支援システム】</p> <p>中学校には平成27年度に市独自の仕様で導入されています。（本稼働は28年度）5年間のリース契約があるため、令和2年度まではこのシステムを使用する。</p> <p>県（自治振興組合）による共同調達があり、令和元年度から県統一仕様の導入が可能になった。安曇野市では、令和2年度から小学校で参加できるよう準備を進めた。（令和2年度当初予算にて負担金を計上）</p> <p>【電子黒板】</p> <p>平成29年度に市内中学校には導入済（126台）であり、その後の使用状況の確認・検証をしている。令和2年度当初予算に市内小学校分の206台の計上をしており、早期導入を行っていく。</p> <p>【センターサーバ】</p> <p>平成27～28年度に新規導入後、現在運用中。（次回更新は令和2年度～）</p>			

	<p>グループウェア・校務管理サーバ、資産管理サーバ、 教育用ファイルサーバ、管理サーバ、フィルタリングサーバ</p> <p>【GIGA スクール構想】 ※令和元年度に国から構想発表あり</p> <p>学校の高速ネットワーク（1Gbps）整備と1人1台の端末整備の構想が示されており、対応するための準備を進めた。</p>
<p>事業の課題及び方向性</p>	<p>【電子黒板】</p> <p>令和2年度に小学校に電子黒板の導入を予定している。導入後も学校の既存の放送機器類との連携ができないため、ブラウン管テレビが残る。撤去にむけた予算確保（デジタル化）が必要。</p> <p>【校務支援システム】</p> <p>県の共同仕様の校務支援システムを小学校に導入することになるが、中学校は1年遅れての共同システムへ移行になる。また、保健システムがシステム業者により開発中であり、令和3年度から運用が開始される予定。</p> <p>【GIGA スクール構想】</p> <p>1人1台の端末整備が国の補助金申請に必須条件であり、運用を想定したネットワーク整備が並行して進められなければならない。計画的に活用するためにも、情報機器に精通した教職員の育成が必要。</p> <p>【オンライン学習】</p> <p>今回の新型コロナウイルス感染症による学校休業への学習保障の対応のひとつとして、準備をしておく必要がある。</p>
<p>自己評価</p>	<p>B</p>

事務事業	No.7	事務事業名： 英語教育の推進事業	R 元年度決算額	66,578 千円
事業の目的	グローバル化する国際社会に対応できる人材の育成を目指し、国際感覚を養うと共に、英会話能力の向上と英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童・生徒を育成する。			
事業内容	中学生海外ホームステイ交流派遣事業や中学校英語課外授業を実施するほか、中学校7校に1名ずつの外国人ALTと小学校の外国語活動において外国人ALT4名と日本人外国語教育コーディネーター3人を配置し、英語教育の推進を図る。			
達成状況	<p>中学生海外ホームステイ交流派遣事業</p> <p>本事業も6回目となり、令和元年度事業においても市内中学校2年生に募集を行い、14人の参加予定に対し56人の応募があった。</p> <p>選抜された生徒は、2回のオリエンテーションと6回の英会話レッスンを受け渡航に備えた。年末から新型コロナウイルス感染症が世界的な感染拡大を見せる中で2/27に渡航中止を決定し、3/1に中止説明会を開催した。(渡航中止の決定には参加予定者から残念に思う声が寄せられ、今後の事業実施における課題となった。)</p> <p>派遣予定期間：令和元年3月21日(土)～30日(月)までの10日間 派遣予定先：オーストラリア メルボルン</p> <p>中学校英語課外授業(令和元年度参加生徒数：77人)</p> <p>市内中学校7校で放課後を活用して実施している。授業は原則的に全て英語による実践的な英会話授業で、「英会話がもっと上達したい」「外国人と日常会話ができるようになりたい」と思う生徒が、ALT、参加生徒と英語でコミュニケーションを取ることで、英語の楽しさを実感できる課外授業となっている。</p> <p>外国語指導助手派遣事業</p> <p>小学校、中学校へALTを派遣し、英語授業におけるチームティーチングや英語に触れる機会は、子ども達の国際的視野の育成やコミュニケーション能力の素地を養い、英語教育の推進に繋がっている。</p>			
事業の課題及び方向性	<p>英語課外授業は、学校により希望者の数に差が見られる。学校規模が違うことも一因と推測されるが、積極的に声掛けを実施している学校がある一方、定員割れを起こしている学校もある。今後は、新型コロナウイルス感染症による授業の遅れなどが心理的負担となり、普段の授業に上乗せとなる課外授業への参加を消極的にさせる心配がある。</p> <p>中学生海外ホームステイ交流派遣事業は民間企業による類似事業が展開されていることもあり、事業目的の検証と、事業内容の見直しを検討する必要がある。</p>			
自己評価	C			

事務事業	No.8	事務事業名： コミュニティスクール事業	R 元年度決算額	9,539 千円																				
事業の目的	子どもたちを育む環境の充実のため、学校と家庭、地域が連携を図り、開かれた特色ある学校づくりを進める。地域住民の持つ経験や技術を多様な形態で学校教育に生かし、地域住民にとっても参加する中からやりがいを得られる活動とし、双方にとって価値を見出すことができる活動を目指す。																							
事業内容	開かれた学校づくりのため、地域教育協議会では地域の方に学校目標への理解を求め、学校応援隊（ボランティア）として学校の支援活動に参加していただく。学校応援隊の活動が円滑に進むよう、人材バンク（ボランティア名簿）を整備するとともに、拠点校を設け学校との関係強化を図っている。また各学校で立志塾と呼ばれる講演会を開催し、地域の方を講師として招いている。																							
達成状況	<p>【学校支援ボランティアの活動】</p> <p>令和元年度の市内全小中学校のコミュニティスクール事業の申請件数（部活動外部指導者申請を含む）は248件で、昨年度より3件増加している。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">平成30年度申請件数</th> <th style="width: 50%;">令和元年度申請件数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学習支援活動 91件</td> <td>学習支援活動 8件</td> </tr> <tr> <td>総合的な学習支援活動 42件</td> <td>総合的な学習支援活動 134件</td> </tr> <tr> <td>読書支援活動 20件</td> <td>読書支援活動 18件</td> </tr> <tr> <td>子ども安全支援活動 10件</td> <td>子ども安全支援活動 9件</td> </tr> <tr> <td>環境整備支援活動 7件</td> <td>環境整備支援活動 8件</td> </tr> <tr> <td>外国籍児童生徒支援活動 8件</td> <td></td> </tr> <tr> <td>障がい児支援活動 4件</td> <td>障がい児支援活動 5件</td> </tr> <tr> <td>部活動支援活動（外部講師）62件</td> <td>部活動支援活動（外部講師）66件</td> </tr> <tr> <td>課外活動支援活動 1件</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>【外国籍児童生徒支援活動】 7件</p> <p>専門的知識や指導経験のある方を「支援員」とし、ボランティアによる支援から切り替えている。令和元年度は12名の支援員により、日本語の支援が必要な児童生徒に日本語教育の支援を行った。</p> <p>【立志塾の開催】（令和元年度開催学校：7校 開催回数：13件）</p> <p>市内各中学校では、安曇野の中学生のよりよい育ちと、子どもたちの心に火をつけて高い志を培うことを目標に、学社連携の取り組みとして、各学校に講師を招き開催している。</p> <p>【中学校部活動指導員】 8名</p> <p>国と県による補助事業を活用して、中学校の部活動における技術的指導や顧問の補助を目的として部活動支援員を配置した。</p> <p>（※部活動外部指導者との違い）</p> <p>部活動指導員は、単独での指導と大会等への引率が認められている。</p>				平成30年度申請件数	令和元年度申請件数	学習支援活動 91件	学習支援活動 8件	総合的な学習支援活動 42件	総合的な学習支援活動 134件	読書支援活動 20件	読書支援活動 18件	子ども安全支援活動 10件	子ども安全支援活動 9件	環境整備支援活動 7件	環境整備支援活動 8件	外国籍児童生徒支援活動 8件		障がい児支援活動 4件	障がい児支援活動 5件	部活動支援活動（外部講師）62件	部活動支援活動（外部講師）66件	課外活動支援活動 1件	
平成30年度申請件数	令和元年度申請件数																							
学習支援活動 91件	学習支援活動 8件																							
総合的な学習支援活動 42件	総合的な学習支援活動 134件																							
読書支援活動 20件	読書支援活動 18件																							
子ども安全支援活動 10件	子ども安全支援活動 9件																							
環境整備支援活動 7件	環境整備支援活動 8件																							
外国籍児童生徒支援活動 8件																								
障がい児支援活動 4件	障がい児支援活動 5件																							
部活動支援活動（外部講師）62件	部活動支援活動（外部講師）66件																							
課外活動支援活動 1件																								

事業の課題及び方向性	<p>「安曇野市コミュニティスクール事業（ACS）」と名称変更してから3年が経過した。活動の活性化を目的に国のコミュニティスクールへの移行を視野に入れ、これまでの組織体制の見直しをしていく予定。その中において他の多くの自治体で行われているボランティアへの謝礼の無償化（謝礼から活動経費への振替え）についても進めていく。</p> <p>外国籍児童生徒支援活動と中学校部活動指導員については、コミュニティスクール事業を離れ、ボランティア主体ではない別の事業として展開を図っていく。</p>
自己評価	C



事務事業	No.9	事務事業名： 中学生議会事業	R 元年度決算額	46 千円
事業の目的	中学生の目線による斬新な発想やアイデアを今後の協働のまちづくり推進に活かすとともに、中学生が主権者の立場で政治への関心を高められるようにする。			
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内各中学校（7校）2年生から各校3人、計21人を中学生議員として委嘱。</li> <li>・各校は市の課題（テーマ）を1つ選び、市職員との学習、取材、アンケート調査を実施し、市政について学習する。</li> <li>・提言型の質問書を作成し、中学生議会当日に発表。</li> </ul>			
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習 各校3人で、市の課題（テーマ）を1つ選び、担当課の職員からの説明を聞き、関係する施設や人の取材や、同じ中学生の認識や考えを調べるために学校内でアンケート調査を実施する等して、追究型の学習を行い、課題への考察と提案を深めた。 令和元年度は、9課に協力をいただき、取り組んだ課題は7つ。 （1）健康増進・福祉の向上を図る高齢者の外出機会を増やす工夫 （2）より多くの市民や観光客が自転車利用をすすめるための工夫 （3）農産物生産者（りんごなど）や栽培面積増加のための工夫 （4）安曇野を若い観光客に魅力ある観光地にするための工夫 （5）ネット社会を安心して生きていくための取り組みの工夫 （6）大型店に負けないにぎわいのある商店街に復活させる工夫 （7）土砂災害警戒区域の特性に配慮した警戒避難体制や自主避難の仕組みをどう整え、防災意識高揚や自主防災力の向上を図っていく工夫</li> <li>・質問書の作成 各中学校の担当教諭の指導、教育指導室からの助言により、質問書を作成。</li> <li>・傍聴を増やすための取組 ○議会当日はパブリックビューイングとして、大会議室にて中継による傍聴を可能にした。 ○支所や図書館などに、中学生議会のポスターの掲示依頼。 →令和元年度の傍聴数は86名（昨年度66名、一昨年度74名）。</li> <li>・議会当日の進行について 一方通行のやり取りではなく対話的に行えるよう配慮。部長等の答弁を受けて、中学生議員は、「自分にできること」「実践していきたいこと」を述べた。</li> </ul>			
事業の課題及び方向性	1 追究活動がしやすいよう、学校ごとのチームで取り組んだ。議員以外の生徒や保護者にも議会への興味・関心を高めてもらうため、追究課題についての意識調査等のアンケートを自校で実施。中学生議員はアンケー			

	<p>ト作成や集計等を行うことは増えたが、その結果多様な意見に触れ、主権者の立場で、協働のまちづくりの意味や、市の抱える課題への関心を深めることができた。</p> <p>2 追究時間は確保できたが、中学生議員となった生徒によっては、部活動等で十分な活動時間が取れない時もあった。その際のフォローについても検討したい。</p>
自己評価	B

事務事業	No.10	事務事業名： 通級指導教室運営事業	R 元年度決算額	478 千円																								
事業の目的	県により設置される LD 等通級指導教室、言語障がい通級指導教室の教室運営の補助。通常学級に在籍しながら、軽度の障がいや学びづらさを抱える児童・生徒に対し、一部取り出しでの個別指導を行い、課題の緩和や解消を図る。通級指導教室運営委員会では、通級の審査と相談を行う。																											
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・穂高北小学校の LD 等通級指導教室 2 教室、言語障がい通級指導教室 1 教室と、穂高東中学校の LD 等通級指導教室 1 教室の運営補助と担当教員の相談対応。</li> <li>・運営委員会で判定された児童・生徒への個別での取り出し指導と、通常学級での集団指導時の環境調整や声がけ等の相談対応。</li> <li>・市内の学校に対して通級指導教室の周知と好事例の発信。活用の促進。</li> </ul>																											
達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童・生徒への指導だけでなく、保護者の悩みも共有することで、教室と家庭で一貫した対応を取るようにした。それが児童・生徒の持つこだわりや障がいの克服や軽減、情緒の安定にも繋がっている。</li> <li>・通級指導を行う児童の主訴が複合的になりつつある。表面的には言語や行動の問題として現れても、原因の根本は情緒や発達面などに起因することも多いため、小学校では、児童の悩みと保護者の悩みの主訴を聞き取り、その軽減や解消に向けた丁寧な指導と相談を心掛けている。主訴の軽減と情緒の安定が図れるよう、家庭と学校で協力して子どもへの指導と関わりを重視している。</li> <li>・中学校での LD 等通級指導教室では、通級指導教室で何を学び、目標とするのかを明確にした上で指導を行った。高等学校への進学等、次の進路に向け、将来的な社会的自立に繋がるような指導と相談を実施した。</li> </ul> <p>(通級指導教室での判定と相談実施の内訳)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">LD 等通級指導教室</th> <th colspan="2">言語障がい通級指導教室</th> </tr> <tr> <th>正式通級</th> <th>相談等</th> <th>正式通級</th> <th>相談等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学校</td> <td>33</td> <td>54</td> <td>16</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>12</td> <td>10</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>45</td> <td>64</td> <td>16</td> <td>11</td> </tr> </tbody> </table>					LD 等通級指導教室		言語障がい通級指導教室		正式通級	相談等	正式通級	相談等	小学校	33	54	16	11	中学校	12	10	—	—	合計	45	64	16	11
	LD 等通級指導教室		言語障がい通級指導教室																									
	正式通級	相談等	正式通級	相談等																								
小学校	33	54	16	11																								
中学校	12	10	—	—																								
合計	45	64	16	11																								
事業の課題及び方向性	LD 等通級指導教室については、穂高北小学校の LD 等通級指導教室担当教員を 1 名兼務発令し、令和 2 年度から、週に 1 日、三郷小学校にサテライト教室を開設する。市域南部に在住の家庭で、通級の希望があっても送迎等の事情で活用ができなかった児童への支援の可能性が広がってくる。在籍校での指導と通級での指導を掛け合わせ、子どもの抱える学びづらさの緩和もしくは解消が図れるような教室運営を目指す。																											
自己評価	B																											

事務事業	No.11	事務事業名： 入学準備金貸付事業	R 元年度決算額	2,080 千円																									
事業の目的	未来を担う人材の育成を図るため、高等学校又は大学等への入学に要する費用の支出が困難な保護者に対し、入学準備金を無利子で貸付ける「安曇野市入学準備金貸付制度」を創設し、平成 28 年 11 月から運用を開始した。																												
事業内容	平成 31 年 4 月に高等学校又は大学等への入学を希望する生徒の保護者で、入学に要する費用の支出が困難な方に対し、入学準備金の貸付けを無利子で行う。																												
達成状況	<p>1. 貸付限度額</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">学校種別等</th> <th>貸付限度額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">高等学校・高等専門学校</td> <td>国・公立</td> <td>10 万円</td> </tr> <tr> <td>私立</td> <td>30 万円</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">大学・短期大学・専門学校</td> <td>国・公立</td> <td>40 万円</td> </tr> <tr> <td>私立</td> <td>60 万円</td> </tr> </tbody> </table> <p>2. 要件</p> <p>(1) 高校・大学等に入学することが確実である進学希望者の保護者で安曇野市に住民票があり、かつ、現に市内に居住している方</p> <p>(2) 生計を一にする者の所得の合計額が基準額以下である方</p> <p>(3) 所得の合計額が基準額以上であっても、経済状況等が急変した方</p> <p>(4) 連帯保証人を立てられる方</p> <p>3. 返済方法 入学月の 4 月から返済が始まり、進学者の通常の修学期間内に完済</p> <p>4. 令和元年度利用実績</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>公立専門学校</th> <th>国公立大学</th> <th>私立大学</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 件</td> <td>1 件</td> <td>2 件</td> <td>4 件</td> </tr> <tr> <td>600,000 円</td> <td>400,000 円</td> <td>1,080,000 円</td> <td>2,080,000 円</td> </tr> </tbody> </table>				学校種別等		貸付限度額	高等学校・高等専門学校	国・公立	10 万円	私立	30 万円	大学・短期大学・専門学校	国・公立	40 万円	私立	60 万円	公立専門学校	国公立大学	私立大学	計	1 件	1 件	2 件	4 件	600,000 円	400,000 円	1,080,000 円	2,080,000 円
学校種別等		貸付限度額																											
高等学校・高等専門学校	国・公立	10 万円																											
	私立	30 万円																											
大学・短期大学・専門学校	国・公立	40 万円																											
	私立	60 万円																											
公立専門学校	国公立大学	私立大学	計																										
1 件	1 件	2 件	4 件																										
600,000 円	400,000 円	1,080,000 円	2,080,000 円																										
事業の課題及び方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和元年度は、夏休み前に市内中・高等学校等の生徒及び保護者への周知を図った。令和 2 年度も引き続き夏休み前の周知を精力的に行う。</li> <li>滞納の傾向が出始めた契約者に対しては、契約者本人や連帯保証人と電話や通知、面談等により意思の疎通を図りながら、都度催告を行い、計画的な返済を促していく。</li> </ul>																												
自己評価	C																												

事務事業	No.12	事務事業名： 学校安全対策事業	R 元年度決算額	5,692 千円
事業の目的	通学路、学校敷地内の安全確保に対する対策を実施する。			
事業内容	児童・生徒の安全確保のため、熊よけ鈴の配布、通学路安全マップの作成、スズメ蜂等の害虫駆除、学校緊急無線通報システム、学校安全連絡網メール配信システムの活用、通学路合同点検の実施等の各種対策をする。			
達成状況	<p>(1) 熊よけ鈴の配布 小学校に対し希望数を調査し、予算の範囲内で購入・配布した。 令和元年度配布学校数：6校（94個）</p> <p>(2) 通学路安全マップの作成 通学路における危険箇所、注意箇所を記載した安全マップを関係機関及び地域に配布し、安全指導、見守り等の安全確保に活用していただいたほか、市ホームページにも掲載し、一般の方が確認できるようにした。</p> <p>(3) スズメ蜂等害虫駆除 学校敷地内のスズメ蜂の巣を専門業者に依頼し、駆除を行った。 令和元年度実施件数：9校9回</p> <p>(4) 学校緊急無線通報システム 学校内に不審者が侵入した場合や事故等があった場合、即座に職員室に連絡が取れる緊急無線通報システムを活用している。</p> <p>(5) 学校安全連絡網メール配信システム 安全連絡網メール配信システム（オクレンジャー）により、警察からの不審者情報をタイムリーに送信したほか、緊急連絡網として活用している。平成30年度からは市教育委員会による情報発信を積極的に行い、学校の負担軽減に寄与した。</p> <p>(6) 緊急地震速報受信装置（更新・新設） 設置から5年を経過した3校について、保証期間が満了するのを機に新しい受信装置に更新した。また、従来は設置に対して補助があったが、平成29年度を最後に補助が無くなったため、未設置の4校は市単独で新規設置。</p> <p>(7) 通学路合同点検の実施（5地域25箇所） 通学路の継続的な安全確保の取り組みとして「安曇野市通学路交通安全プログラム」を策定し、地区・PTA要望としてご提出いただいた、通学路危険箇所を警察、道路管理者、学校、地域の方々と点検を行い、改善等の対応をした。 また、学校教育課としても「通学路」標識等の修繕、設置工事を実施した。令和元年度設置枚数：13カ所、撤去1カ所</p>			
事業の課題及び方向性	児童・生徒の安全確保のため、関係機関等との連携を強化し、情報共有を行いながら推進していく。			
自己評価	B			

事務事業	No.13	事務事業名： 小・中学校施設改修事業	令和元年度決算額	601,296千円																															
事業の目的	1. 学校教育法に基づき、小・中学校施設を整備する。 2. 国が示す耐震性能を確保し、安全な施設環境を提供する。 3. 老朽化した施設を改修し、健全な施設環境を提供する。																																		
事業内容	1. 屋内運動場の非構造部材の耐震化 2. 校舎の長寿命化改良																																		
達成状況	1. 屋内運動場の非構造部材の耐震化 災害発生時に避難所となる体育館等の天井等の落下防止対策工事を行い、防災機能を強化した。令和元年度は計画していた3箇所を施工した。 <table border="1" data-bbox="432 638 1390 835"> <thead> <tr> <th>実施場所</th> <th>工事請負費</th> <th>主な内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>堀金小学校 体育館</td> <td>37,800,000円</td> <td>・照明の耐震化</td> </tr> <tr> <td>明北小学校 体育館</td> <td>39,009,600円</td> <td>・外壁改修</td> </tr> <tr> <td>穂高南小学校 体育館</td> <td>123,299,000円</td> <td>・ガラス飛散防止</td> </tr> </tbody> </table> 2. 校舎の長寿命化改良 構造体等の長寿命化による中長期的な維持管理等に係る経費縮減及び学校施設の機能・性能の向上を目的とした長寿命改良工事を平成29年度から令和元年度までの3年間、穂高南小学校で実施した。 ○穂高南小学校長寿命化改良工事 工事請負費（国交付金対象事業） <table border="1" data-bbox="432 1122 1390 1619"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>実施場所</th> <th>工事請負費</th> <th>主な内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H29</td> <td>低学年棟</td> <td>59,190,000円</td> <td rowspan="5">           ・コンクリートの中酸化対策工事            ・老朽化対策工事         </td> </tr> <tr> <td>H30</td> <td>低学年棟、管理棟・昇降口棟</td> <td>329,000,000円</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">R元</td> <td>管理棟・昇降口棟</td> <td>238,750,000円</td> </tr> <tr> <td>理科室棟、調理室他</td> <td>107,052,000円</td> </tr> <tr> <td colspan="2">合計</td> <td>733,992,000円</td> </tr> </tbody> </table>				実施場所	工事請負費	主な内容	堀金小学校 体育館	37,800,000円	・照明の耐震化	明北小学校 体育館	39,009,600円	・外壁改修	穂高南小学校 体育館	123,299,000円	・ガラス飛散防止	年度	実施場所	工事請負費	主な内容	H29	低学年棟	59,190,000円	・コンクリートの中酸化対策工事 ・老朽化対策工事	H30	低学年棟、管理棟・昇降口棟	329,000,000円	R元	管理棟・昇降口棟	238,750,000円	理科室棟、調理室他	107,052,000円	合計		733,992,000円
実施場所	工事請負費	主な内容																																	
堀金小学校 体育館	37,800,000円	・照明の耐震化																																	
明北小学校 体育館	39,009,600円	・外壁改修																																	
穂高南小学校 体育館	123,299,000円	・ガラス飛散防止																																	
年度	実施場所	工事請負費	主な内容																																
H29	低学年棟	59,190,000円	・コンクリートの中酸化対策工事 ・老朽化対策工事																																
H30	低学年棟、管理棟・昇降口棟	329,000,000円																																	
R元	管理棟・昇降口棟	238,750,000円																																	
	理科室棟、調理室他	107,052,000円																																	
合計		733,992,000円																																	
事業の課題及び方向性	体育館等の非構造部材耐震化工事については、学校の夏休みに工事が集中するなか、計画どおりに実施することができた。体育館の吊り天井の耐震化は平成30年度に完了し、照明器具の落下防止工事などの吊り天井以外の耐震化は令和2年度に完了予定。 安曇野市内の小中学校17校のうち、令和元年度には4校が築50年を経過し、老朽対策が課題となっている。改築（建替え）に係る国の補助金等の支援が見込めないことから、長寿命化改良工事を活用して学校施設の老朽化対策を実施していく。																																		
自己評価	B																																		

事務事業	No.14	事務事業名： 給食事業	R 元年度決算額	290,976 千円
事業の目的	安曇野市学校給食理念（目標）に基づき、安全・安心で栄養バランスのとれた給食を提供するとともに、地産地消及び食育の推進を図る。			
事業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 市内 17 の小・中学校に安全・安心で美味しい給食の提供</li> <li>2 食育への取り組みと地産地消の推進</li> <li>3 学校給食食材の安全確保の取り組み</li> <li>4 学校給食費の徴収及び食材費支払い</li> </ol>			
達成状況	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 市内 17 の小・中学校に安全・安心で美味しい給食の提供 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1日の給食提供食数 約 8,030 食</li> <li>・ 年間の給食提供食数 約 1,606,000 食</li> <li>・ アレルギー対応食提供者数 34 人</li> </ul> </li> <li>2 食育への取り組みと地産地消の推進 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 月 1 回「安曇野の日」を設定し、地元食材を使用した献立の提供により地産地消を推進（年 12 回、4 センター共通）</li> <li>・ 栄養教諭、栄養士等が学校訪問し、食育（栄養・食事のバランス・食の大切さ等）の実施（市内 17 校）</li> <li>・ 給食だよりの発行（給食提供日全クラス数発行、4 センター共通）</li> </ul> </li> <li>3 学校給食食材の安全確保の取り組み <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市独自の放射線測定の実施（H23. 11 月から） 全 263 食材（不検出）</li> <li>・ 県への学校給食食材放射性物質検査の依頼（H24. 4 月から各センター月 1 回）</li> </ul> <p style="margin-left: 20px;">全 31 食材（不検出）</p> </li> <li>4 学校給食費の徴収状況 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 口座振替登録率 99.77%</li> <li>・ 給食費収納率 99.73%</li> </ul> </li> </ol>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】 稼働から 10 年以上を経過（北部センター除く）し、厨房設備・施設等の修繕費が増加している。食器の劣化が進み、入れ替えが必要。</p> <p>学校給食費の収納率向上にむけ、学校と連携して対策を強化する。</p> <p>【方向性】 安全・安心で栄養バランスのとれた給食を安定的に提供できるように管理運営を実施する。併せて、地元食材の使用拡大を進め地産地消推進と栄養教諭等の学校訪問を積極的に進め、食育の推進を図る。</p>			
自己評価	B			

事務事業	No.15	事務事業名： 青少年健全育成事業	R 元年度決算額	22,923 千円
事業の目的	青少年が心身ともに健やかに育ち、社会の一員としての使命と役割に自覚をもって自立する力を育成する。			
事業内容	1 成人式実施事業                      2 青少年健全育成環境整備事務 3 青少年体験事業                      4 子ども会育成会支援事務			
達成状況	1 成人式実施事業 (1) 期日 令和2年1月12日 (2) 対象者 1,103人 (3) 参加者 797人 (出席率:72.3%) (4) その他 記念品にフォトフレームと記念写真を贈り、式典後、中学生時代のフォトムービーを鑑賞しながら交流会を開催した。 三郷中合唱部による祝賀演唱を行った。 2 青少年健全育成環境整備事務 (1) 青少年センターにおいて、広報・啓発、青少年相談、街頭巡回、社会環境浄化活動に取り組んだ。 (2) 啓発活動の一環として、信州大学教育学部 茅野准教授による講演会「子どものこころに耳を傾ける」を開催した。 (3) 黒沢洞合自然公園用地取得 3,507㎡ 3 青少年体験事業 (1) 親子体験ラボ 5回 延44人 コマ作り、ハーバリウムボールペン、サンドアート、ミニたたみ、和風、手打ちラーメン(参加者予定者インフルエンザにより中止) (2) 親子プログラミング教室 8回 延310人、体験コーナー設置 (3) ジュニアリーダー養成講座 2回 延62人 バルーンアート講座、まゆ玉作り講座 (4) 子ども体験ショー 1回 台風19号接近により中止 (5) 子ども文化祭 1回 約400人 ステージ発表の部 12団体 展示の部 5団体 4 子ども会育成会支援 (1) 地域での子ども達の自主的な活動を推進させ、また、地域育成会の活動の活発化を目的に子ども会育成会活動への補助を行った。 (2) 基本補助金(平等割、均等割) 97地区育成会 (補助金:4,685,800円) (3) 活性化補助金 43地区育成会 (補助金:1,752,000円) (4) 安全共済会加入補助 7,753人 (補助金:1,162,800円)			
事業の課題及び方向性	令和2年度は小中学校の夏休み短縮を受け、体験事業に参加しやすくするため、講座やイベント等の内容、開催時期を調整するとともに、それらの情報提供を行っていく必要がある。 新型コロナウイルス感染症の影響により、地区子ども会育成会の活動が低調傾向であるが、ジュニアリーダー養成講座の開催や活性化補助金の交付により、引続き活動の支援を行っていく。			
自己評価	B			



事務事業	No.16	事務事業名： 生涯学習講座実施事業	R 元年度決算額	1,568 千円
事業の目的	安曇野市生涯学習推進計画に基づき、健康で豊かな生涯学習社会を実現する。			
事業内容	1 市民大学講座 特別編 2 市民大学講座 信州大学編 3 安曇野アカデミー 4 学校開放講座 5 日本語教室 6 日本語教室ボランティア講習会 7 日本語教室ボランティアきっかけ講座			
達成状況	1 市民大学講座 特別編 期日：6月15日(土) 会場：豊科公民館大ホール 受講者数：334人 演題：日本人を幸せにする経済学 講師：森永 卓郎さん(経済アナリスト) 2 市民大学講座 信州大学編(全6回) 信州大学との連携協定により同大学に協力いただき講座を開催した。 受講者数：延べ506人 3 安曇野アカデミー(全5回) 安曇野市の歴史や文化、伝統など郷土について学ぶための講座を開催した。今年度は「歴史の道」をテーマに千国道や善光寺街道等の古道や宿場等について学び、5回目のフィールドワークで実際に現地を訪れ見て触れて学んだ。 受講者数：延べ401人 4 学校開放講座(9講座53回) 市内の高等学校の協力により、学校施設を会場に教員や生徒が講師となり農業体験や日商簿記等さまざまな講座を開催した。 受講者数：延べ572人 5 日本語教室(原則毎週1回、4地域で実施) 市内在住の外国人を対象とした日本語教室を市民ボランティアの協力により実施した。 受講者数：年間延べ1,278人 6 日本語教室ボランティア講習会(全2回) 日本語教室のボランティアスタッフを対象に日本語指導のスキルを学ぶための講習会を開催した。 受講者数：延べ19人 7 日本語教室ボランティアきっかけ講座(全2回)【中止】 日本語教室のボランティアをやってみたい方を対象に3月に開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止ため中止になった。			
事業の課題及び方向性	市民ニーズや時代の潮流に即した講座を開催することで、受講者数が大幅に増え、受講者アンケートでも高い満足度を得られた。また、市民大学講座信州大学編では幅広いテーマで企画したことで若年層の参加も見られた。			
自己評価	B			

事務事業	No.17	事務事業名： 社会教育団体支援事業	R元年度決算額	1,233千円					
事業の目的	予算の範囲内で補助金を交付し、社会教育事業及び生涯学習事業の推進を図る。								
事業内容	1 社会教育推進事業及び芸術文化協会の運営への補助金交付								
達成状況	1 社会教育推進事業及び芸術文化協会の運営への補助金交付 安曇野市社会教育事業補助金交付要綱による社会教育推進団体への補助金								
	交付先		補助金額						
	安曇野市連合婦人会		90,000円						
	安曇野市太鼓連盟		184,062円						
	安曇野市鈴虫を育てる会		40,000円						
	安曇野市囲碁・将棋大会		91,493円						
	芸術文化協会		827,400円						
	合計		1,232,955円						
	各種団体での社会教育事業及び地域芸術文化協会の運営は円滑に行われ、適正に遂行されていた。								
	参考：芸術文化協会の状況（会員数） (人)								
年度	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	比較 (H30 : R1)
豊科	374	355	353	309	281	273	247	221	△26
穂高	575	548	517	500	572	647	565	551	△14
三郷	417	368	361	405	421	418	440	464	24
堀金	276	291	277	280	257	236	218	207	△11
明科	217	250	240	240	240	240	219	215	△4
合計	1,859	1,812	1,748	1,734	1,771	1,814	1,689	1,658	△31
事業の課題及び方向性	社会教育事業を推進するため、関係団体や各種事業の要望を把握するとともに従来事業の内容を精査し、将来に向けた自立を促す必要がある。								
自己評価	C								

事務事業	No.18	事務事業名： 放課後・家庭教育推進費事業	R 元年度決算額	5,800 千円																																																																														
事業の目的	・放課後の児童の安全、安心な居場所として学校の施設を使用し、異年齢の子どもが交じりあって十分に遊び、さらに地域の人たちとも関わることで、たくましさや社会性を養う。																																																																																	
事業内容	1 放課後子ども教室実施事業																																																																																	
達成状況	<p>1 放課後子ども教室推進事業</p> <p>放課後の児童の安全、安心な居場所として、また、様々な体験や遊びを通じて異年齢間の交流を図り、地域の大人の見守りの中で思い切り遊ぶ機会を確保するため、10 小学校の施設を利用して、週 1 回の放課後子ども教室「わいわいランド」を開催した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>学校名</th> <th>コーディネーター</th> <th>教育活動サポーター</th> <th>登録児童数</th> <th>開催日数</th> <th>延べ出席人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>豊科南</td> <td>3</td> <td>12</td> <td>114</td> <td>22</td> <td>2,141</td> </tr> <tr> <td>豊科北</td> <td>3</td> <td>10</td> <td>90</td> <td>21</td> <td>1,732</td> </tr> <tr> <td>豊科東</td> <td>2</td> <td>11</td> <td>35</td> <td>23</td> <td>729</td> </tr> <tr> <td>穂高南</td> <td>2</td> <td>19</td> <td>103</td> <td>6</td> <td>478</td> </tr> <tr> <td>穂高北</td> <td>2</td> <td>26</td> <td>151</td> <td>19</td> <td>2,333</td> </tr> <tr> <td>穂高西</td> <td>2</td> <td>17</td> <td>109</td> <td>27</td> <td>2,630</td> </tr> <tr> <td>三郷</td> <td>2</td> <td>15</td> <td>125</td> <td>27</td> <td>1,965</td> </tr> <tr> <td>堀金</td> <td>3</td> <td>14</td> <td>160</td> <td>26</td> <td>3,686</td> </tr> <tr> <td>明南</td> <td>2</td> <td>17</td> <td>68</td> <td>27</td> <td>1,490</td> </tr> <tr> <td>明北</td> <td>2</td> <td>17</td> <td>56</td> <td>27</td> <td>1,423</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>23</td> <td>158</td> <td>1,011</td> <td>225</td> <td>18,607</td> </tr> <tr> <td>H30 年度</td> <td>23</td> <td>138</td> <td>1,026</td> <td>262</td> <td>21,957</td> </tr> </tbody> </table> <p>※穂高南小は体育館の非構造部材耐震化工事のため、1月開始。 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、2月26日で活動終了。</p>				学校名	コーディネーター	教育活動サポーター	登録児童数	開催日数	延べ出席人数	豊科南	3	12	114	22	2,141	豊科北	3	10	90	21	1,732	豊科東	2	11	35	23	729	穂高南	2	19	103	6	478	穂高北	2	26	151	19	2,333	穂高西	2	17	109	27	2,630	三郷	2	15	125	27	1,965	堀金	3	14	160	26	3,686	明南	2	17	68	27	1,490	明北	2	17	56	27	1,423	合計	23	158	1,011	225	18,607	H30 年度	23	138	1,026	262	21,957
学校名	コーディネーター	教育活動サポーター	登録児童数	開催日数	延べ出席人数																																																																													
豊科南	3	12	114	22	2,141																																																																													
豊科北	3	10	90	21	1,732																																																																													
豊科東	2	11	35	23	729																																																																													
穂高南	2	19	103	6	478																																																																													
穂高北	2	26	151	19	2,333																																																																													
穂高西	2	17	109	27	2,630																																																																													
三郷	2	15	125	27	1,965																																																																													
堀金	3	14	160	26	3,686																																																																													
明南	2	17	68	27	1,490																																																																													
明北	2	17	56	27	1,423																																																																													
合計	23	158	1,011	225	18,607																																																																													
H30 年度	23	138	1,026	262	21,957																																																																													
事業の課題及び方向性	<p>水曜日のクラブ活動により、高学年の参加が困難な学校もあるが、地域ごとにミニ運動会やサッカー教室、囲碁教室等の講座、また自由遊び中心など特色ある活動を進めることができた。</p> <p>コーディネーター、サポーターの固定化、高齢化傾向があるため、保護者世代の参加を進めた結果、令和元年度は 20 人の増となった。</p>																																																																																	
自己評価	B																																																																																	

事務事業	No.19	事務事業名： 児童館運営事業	R 元年度決算額	212,709 千円
事業の目的	国の地域子育て支援拠点事業、放課後児童健全育成事業を推進するため、また子育て支援の充実を図るため、児童館、児童クラブの運営及び施設整備を行う。			
事業内容	市内9か所の児童館、11か所の児童クラブ（穂高西小分室、三郷小空き教室含む）の運営を、指定管理者である安曇野市社会福祉協議会に委託し、子育て支援事業、子育て相談事業、地域ふれあい事業、青少年育成事業、放課後児童健全育成事業等の事業を実施する。			
達成状況	<p>1 児童館実施事業</p> <p>(1) 子育て支援事業 キッズパーク、みんなあつまれ、お下がり会</p> <p>(2) 子育て相談事業 育児相談、子育て勉強会</p> <p>(3) 地域ふれあい事業 ふれあい農園、地域ボランティア、児童館祭り</p> <p>(4) 青少年育成事業 チャレンジタイム、お楽しみ企画</p> <p>(5) 放課後児童健全育成事業 児童クラブ、障がい児児童クラブ</p> <p>(6) 児童館来館者数 83,761人（児童クラブ利用者数を除く）</p> <p>2 児童クラブ事業</p> <p>(1) 児童クラブ定員 通年 702人、長期 375人、合計 1,077人</p> <p>(2) 児童クラブ登録者 通年 612人、長期 411人、合計 1,023人（最多時）</p> <p>(3) 延べ利用者数 106,697人（平成30年度実績 109,979人）</p> <p>3 環境整備</p> <p>(1) エアコン設置 豊科中央児童館図書室 穂高西部児童館プレイルーム、事務室</p> <p>(2) 網戸設置 穂高北小児童クラブ</p> <p>4 新型コロナウイルス感染症拡大防止による小学校休業への対応</p> <p>(1) 3月5日（木）～18日（水）の間、午前7時30分から児童クラブ開設。教育部職員も早朝、夕方の支援にあたり、延べ3,338人が利用。</p> <p>(2) 児童館（自由来館）は3月5日（木）～31日（火）を休館とした。</p>			
事業の課題及び方向性	<p>増加する児童クラブの利用ニーズと5、6年生までの拡大や利用要件緩和の要望に対し、今後の小学校ごとの児童数の推計を基に、余裕教室の活用や小学校近隣施設での児童クラブ開設の可能性を見極めながら施設整備を進めていく必要がある。</p> <p>あわせて、指定管理者における放課後児童支援員等の増員を進めていく必要がある。</p>			
自己評価	C			

事務事業	No.20	事務事業名： 中央公民館事業	R 元年度決算額	52,218 千円								
事業の目的	地域の社会教育機関として、社会教育法第 20 条で定める「市民の生活文化の進行と社会福祉の増進に寄与する」ため、『安曇野市公民館の理念』の下、安曇野市公民館を運営した。											
事業内容	<table border="0"> <tr> <td>1 公民館運営審議会</td> <td>2 公民館長会・公民館担当者会議</td> </tr> <tr> <td>3 第 12 回安曇野市公民館大会</td> <td>4 中央公民館報</td> </tr> <tr> <td>5 第 8 回安曇野市総合芸術展</td> <td>6 生涯学習情報～Link～</td> </tr> <tr> <td>7 各 5 分館における講座等</td> <td>8 地区公民館支援事業</td> </tr> </table>				1 公民館運営審議会	2 公民館長会・公民館担当者会議	3 第 12 回安曇野市公民館大会	4 中央公民館報	5 第 8 回安曇野市総合芸術展	6 生涯学習情報～Link～	7 各 5 分館における講座等	8 地区公民館支援事業
1 公民館運営審議会	2 公民館長会・公民館担当者会議											
3 第 12 回安曇野市公民館大会	4 中央公民館報											
5 第 8 回安曇野市総合芸術展	6 生涯学習情報～Link～											
7 各 5 分館における講座等	8 地区公民館支援事業											
達成状況	<p>1 公民館運営審議会 安曇野市公民館条例に基づき公民館の各種事業への指導・助言をいただくため、公民館運営審議会（委員 13 人）を年 2 回開催し、事業計画及び事業報告等について協議した。</p> <p>2 公民館長会・公民館担当者会議（各毎月 1 回開催） 各種講座や公民館の管理運営について協議し、事業の推進及び管理体制の改善を図った。</p> <p>3 第 13 回安曇野市公民館大会 期日：5 月 19 日（日） 会場：豊科公民館大ホール 参加者数：307 人 内容：公民館活動功労者表彰 1 団体、地区公民館報表彰 3 点 事例発表 下鳥羽地区公民館 講演会「出会い、学び、地域を拓く」 講師 向井 健さん</p> <p>4 中央公民館報 市民 5 人の編集委員により地域で活躍しているリーダーやグループ、地区公民館の活動紹介等の記事を掲載し、年 6 回発行した。</p> <p>5 第 9 回安曇野市総合芸術展【中止】 期間：3 月 11 日（水）～19 日（木） 会場：豊科交流学習センター「きぼう」 展示作品数：115 点（絵画・写真・工芸・書道・彫刻など） ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止になった。</p> <p>6 生涯学習情報～Link～（配布部数約 800 部） 公民館や交流学習センター、体育館等の施設利用案内やリーダーバンク、団体・サークル紹介などの情報を掲載した「生涯学習情報～Link～」を年 2 回（春号 4 月、秋号 10 月）発行し、本庁舎や各公民館等に設置した。また、市ホームページへも掲載し広く周知した。</p> <p>7 各 5 分館における講座等 5 地域の公民館において、各地域の歴史・文化等を学ぶ講座や地場産食材を使った料理教室など各地域の特徴を活かした講座を実施した。</p> <p>8 地区公民館支援 地区公民館活動補助金として 98 地区公民館を対象に 30,825,000 円の補助を行い、地区公民館活動を支援した。また、地区公民館建設補助金として、等々力町区公民館 15,000,000 円、重柳地区公民館 972,000 円、狐島地区公民館 1,394,557 円の補助を行った。</p>											
事業の課題及び方向性	生涯学習情報～Link～に施設案内の他に新たに市民サークル・団体情報を掲載することで、市民の生涯学習活動を支援することができた。 毎月の公民館長会や公民館担当者会議において、5 地域公民館の現状や課題を情報共有し、課題解決に向けて協議を継続していく。											
自己評価	B											

事務事業	No.21	事務事業名： 交流学習センター等事業	R 元年度決算額	3,035 千円
事業の目的	市民の「交流の場」「学習の場」、さらには地域交流の拠点として、一層の市民の利用促進を図り、安曇野市穂高交流学習センター、安曇野市豊科交流学習センター、安曇野市三郷交流学習センター、安曇野市明科学習館の4施設の適正かつ円滑に管理運営する。			
事業内容	生涯学習推進計画及び文化振興計画の実現のため、次代の文化活動の担い手の育成や、親子で参加できる体験・学習できるような文化活動等による教育の機会の充実を図るとともに、文化芸術の鑑賞の機会と創作活動・発表の場の提供として、自主文化事業、貸館業務のほか、団体等との共催事業にも取り組んだ。			
達成状況	<p>○主な自主事業</p> <p>1 新進音楽家演奏会 安曇野市で活躍を希望する若手音楽家の発掘のため、公開オーディションを開催し、演奏の機会の提供と市民が身近に音楽芸術に触れられる機会を提供した。</p> <p>(1) 第9回あづみの新進音楽家公開オーディション 開催日7月27日(土) 参加者 ジュニアの部14組22人 一般の部 8組9人</p> <p>(2) 選出者によるコンサート ア Holiday Concert in Mirai 2019 開催日12月21日(土) 参加者 6組9人 入場者198人 イ 第5回あづみジュニアクラシック音楽会 開催日3月21日(土) 参加者7組10人 感染症予防のため、あづみ野テレビの協力により無観客により収録のみ実施、後日放送。</p> <p>(3) 第8回までのオーディション選出者によるコンサート 0歳からのミニコンサート(全4回) 開催日①9月27日(金) ②12月4日(水) ③1月15日(水) ④3月4日(水) 感染症予防のため中止 入場者 合計348人</p> <p>2 熊井啓監督顕彰事業 「深い河」上映会・熊井明子氏講演会 開催日2月1日(土) 入場者 午前の部159人 午後の部167人 夜の部72人</p> <p>3 ワークショップ 各交流学習センターにて体験型の講座を実施。参加者合計63人</p> <p>4 企画展「交わるアート」10月22日(火)～11月4日(月) 来場者789人</p> <p>5 「からたち日記」上映会 感染症予防のため中止</p>			
事業の課題及び方向性	<p>【課題】 感染症対策を取りながら事業を実施する必要がある。</p> <p>【方向性】 事前予約・全席指定など感染症対策を取りながら、新進音楽家の活動の場の提供及び展示等の充実を図っていく。</p>			
自己評価	B			

事務事業	No.22	事務事業名： 図書館活動の推進事業	R元年度決算額	155,216千円																																																																																																	
事業の目的	市民へ質の高い情報を提供できる「学習センター」、「情報センター」、「文化センター」として多様化する市民の「学び」のニーズに応える図書館の確立を進めている。																																																																																																				
事業内容	1 新鮮な資料や最新の情報の市民への提供 2 さまざまな「学び」の場としての図書館サービスの充実 3 「地域の教育力」を高める活動の推進 4 図書館利用に障がいのある方々への支援 5 安曇野市の歴史文化の伝承 6 市民の調査・研究支援体制の強化援助																																																																																																				
達成状況	1 第2次安曇野市図書館基本計画（平成30年3月策定）のサービス目標値と令和元年度末の状況																																																																																																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>蔵書数</th> <th>年間利用者数</th> <th>市民1人あたりの貸出点数</th> <th>団体貸出点数</th> <th>郷土資料蔵書数</th> <th>レファレンスサービス利用数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標値</td> <td>422,000</td> <td>220,300</td> <td>9.0</td> <td>28,000</td> <td>38,000</td> <td>7,280</td> </tr> <tr> <td>R元年度末</td> <td>446,734</td> <td>237,305</td> <td>9.1</td> <td>29,837</td> <td>33,750</td> <td>6,425</td> </tr> </tbody> </table>				項目	蔵書数	年間利用者数	市民1人あたりの貸出点数	団体貸出点数	郷土資料蔵書数	レファレンスサービス利用数	目標値	422,000	220,300	9.0	28,000	38,000	7,280	R元年度末	446,734	237,305	9.1	29,837	33,750	6,425																																																																												
	項目	蔵書数	年間利用者数	市民1人あたりの貸出点数	団体貸出点数	郷土資料蔵書数	レファレンスサービス利用数																																																																																														
	目標値	422,000	220,300	9.0	28,000	38,000	7,280																																																																																														
	R元年度末	446,734	237,305	9.1	29,837	33,750	6,425																																																																																														
	※年間利用者数：資料貸出の延べ人数と講座等参加者の合計人数																																																																																																				
	※人口：97,368人（令和2年4月1日現在）																																																																																																				
	(2) 館別																																																																																																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>総蔵書点数</th> <th>登録者数</th> <th>個人貸出点数</th> <th>団体貸出点数</th> <th>予約件数</th> <th>レファレンスサービス利用数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">中央</td> <td>R元年度末</td> <td>219,427</td> <td>25,714</td> <td>491,469</td> <td>13,168</td> <td>16,846</td> <td>2,131</td> </tr> <tr> <td>H30年度末</td> <td>211,705</td> <td>24,618</td> <td>464,091</td> <td>12,164</td> <td>15,523</td> <td>2,279</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">豊科</td> <td>R元年度末</td> <td>87,656</td> <td>11,610</td> <td>164,863</td> <td>8,849</td> <td>8,998</td> <td>1,635</td> </tr> <tr> <td>H30年度末</td> <td>85,529</td> <td>11,123</td> <td>149,613</td> <td>8,294</td> <td>8,636</td> <td>1,687</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">三郷</td> <td>R元年度末</td> <td>47,697</td> <td>4,406</td> <td>133,096</td> <td>3,437</td> <td>5,182</td> <td>712</td> </tr> <tr> <td>H30年度末</td> <td>44,205</td> <td>4,078</td> <td>117,953</td> <td>3,882</td> <td>4,972</td> <td>913</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">堀金</td> <td>R元年度末</td> <td>42,700</td> <td>2,352</td> <td>65,158</td> <td>2,446</td> <td>2,811</td> <td>199</td> </tr> <tr> <td>H30年度末</td> <td>40,675</td> <td>2,261</td> <td>55,495</td> <td>2,722</td> <td>2,873</td> <td>137</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">明科</td> <td>R元年度末</td> <td>49,254</td> <td>4,044</td> <td>31,984</td> <td>1,937</td> <td>2,794</td> <td>1,748</td> </tr> <tr> <td>H30年度末</td> <td>48,524</td> <td>3,942</td> <td>28,183</td> <td>2,323</td> <td>2,504</td> <td>1,420</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">合計</td> <td>R元年度末</td> <td>446,734</td> <td>48,126</td> <td>886,570</td> <td>29,837</td> <td>36,631</td> <td>6,425</td> </tr> <tr> <td>H30年度末</td> <td>430,638</td> <td>46,022</td> <td>815,335</td> <td>29,385</td> <td>34,508</td> <td>6,436</td> </tr> </tbody> </table>				項目	総蔵書点数	登録者数	個人貸出点数	団体貸出点数	予約件数	レファレンスサービス利用数	中央	R元年度末	219,427	25,714	491,469	13,168	16,846	2,131	H30年度末	211,705	24,618	464,091	12,164	15,523	2,279	豊科	R元年度末	87,656	11,610	164,863	8,849	8,998	1,635	H30年度末	85,529	11,123	149,613	8,294	8,636	1,687	三郷	R元年度末	47,697	4,406	133,096	3,437	5,182	712	H30年度末	44,205	4,078	117,953	3,882	4,972	913	堀金	R元年度末	42,700	2,352	65,158	2,446	2,811	199	H30年度末	40,675	2,261	55,495	2,722	2,873	137	明科	R元年度末	49,254	4,044	31,984	1,937	2,794	1,748	H30年度末	48,524	3,942	28,183	2,323	2,504	1,420	合計	R元年度末	446,734	48,126	886,570	29,837	36,631	6,425	H30年度末	430,638	46,022	815,335	29,385	34,508	6,436
	項目	総蔵書点数	登録者数	個人貸出点数	団体貸出点数	予約件数	レファレンスサービス利用数																																																																																														
中央	R元年度末	219,427	25,714	491,469	13,168	16,846	2,131																																																																																														
	H30年度末	211,705	24,618	464,091	12,164	15,523	2,279																																																																																														
豊科	R元年度末	87,656	11,610	164,863	8,849	8,998	1,635																																																																																														
	H30年度末	85,529	11,123	149,613	8,294	8,636	1,687																																																																																														
三郷	R元年度末	47,697	4,406	133,096	3,437	5,182	712																																																																																														
	H30年度末	44,205	4,078	117,953	3,882	4,972	913																																																																																														
堀金	R元年度末	42,700	2,352	65,158	2,446	2,811	199																																																																																														
	H30年度末	40,675	2,261	55,495	2,722	2,873	137																																																																																														
明科	R元年度末	49,254	4,044	31,984	1,937	2,794	1,748																																																																																														
	H30年度末	48,524	3,942	28,183	2,323	2,504	1,420																																																																																														
合計	R元年度末	446,734	48,126	886,570	29,837	36,631	6,425																																																																																														
	H30年度末	430,638	46,022	815,335	29,385	34,508	6,436																																																																																														

<p>事業の課題及び方向性</p>	<p>図書館整備や資料の充実に伴い、貸出数が毎年増加している。また、図書館サービスについても、市民のニーズに合わせ講座やイベント等を開催するとともに、図書館職員のスキルアップを図りながらレファレンスサービスにも力を入れてきた。</p> <p>引き続き、図書館利用促進のため、新鮮で活用される資料収集やそれぞれの世代に合った魅力的なイベントの充実を図るとともに、図書館活動の周知を積極的に行い、図書館だよりや市広報紙、ホームページやツイッターなどの様々な媒体を活用しながら情報発信をしていく必要がある。</p>
<p>自己評価</p>	<p>B</p>



事務事業	No.23	事務事業名： 人権教育推進事業	R 元年度決算額	3,748 千円
事業の目的	安曇野市人権教育・啓発推進計画の基本目標と基本方針に基づき、人権問題の現状と課題に対し、あらゆる場を通じた人権教育・啓発を推進する。			
事業内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 人権教育推進委員会及び人権教育指導員合同会議</li> <li>2 企業人権教育推進協議会</li> <li>3 地域人権教育推進協議会、学社連携事業、地区人権学習会支援</li> <li>4 2分の1成人記念 人権・平和特別授業～kizuki～</li> <li>5 人権尊重作文集～kiseki～</li> </ol>			
達成状況	<p>安曇野市人権教育・啓発推進計画（平成19年3月制定）に基づき、人権教育の推進に向けて全市的に啓発事業に取り組むとともに、各地域の人権教育推進協議会等と地区公民館での取り組みを推進した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 人権教育推進委員会及び人権教育指導員合同会議 人権教育推進委員会小委員会、人権教育推進委員会及び人権教育指導員合同会議を開催し、事業計画及び事業報告について協議した。 また、合同会議と合わせて研修会を開催し、人権に対する理解を深めていただくことができた。</li> <li>2 企業人権教育推進協議会 35企業61事業所（令和2年3月現在）が加入している。総会、理事会に加え、年2回の啓発講演会を実施し、職場におけるハラスメントやサイバー犯罪等の現状と対策について学んだ。</li> <li>3 地域人権教育推進協議会、学社連携事業、地区人権学習会支援 人権教育推進協議会や研修会の開催のほか、学社連携事業として小中学校人権教育推進協議会と連携し、人権教育推進委員・指導員が授業参観や講演会、懇談会などへ参加した。 また、地区公民館での人権学習会を支援し、各地区の実情に応じてテーマを決め、98地区公民館において人権学習が行われた。</li> <li>4 2分の1成人記念 人権・平和特別授業～kizuki～ 市内の小学校4年生の児童が一堂に会し、児童同士の絆を深めるとともに安曇野市に対する郷土愛を育むことを目的に人権・平和特別授業～kizuki～を開催した。 期日：10月1日（火）会場：豊科公民館大ホール 参加児童数：781人 内容：市歌斉唱、中学生による人権事例発表、 ミュージカル鑑賞「オズの魔法使い」</li> <li>5 人権尊重作文集～kiseki～ 人権尊重の意識を深めるため、次代を担う小中学生（小学3年生～中学3年生）を対象に人権尊重作文を募集し、選考された作文により人権尊重作文集～kiseki～を作成した。作文集は小中学校や人権教育推進委員・指導員に配布し、人権学習・研修の資料として活用した。</li> </ol>			
事業の課題及び方向性	人権・平和特別授業は、中学生の人権事例発表を通して命の尊さや人権を守ることの大切さを学び人権に対する意識を高めることができたが、より一層児童同士の絆を深めるという観点から内容を検討していきたいと考えている。			
自己評価	B			

事務事業	No.24	事務事業名： 人権集会所整備事業	R 元年度決算額	1,670 千円
事業の目的	公共施設再配置計画 10 年計画の推進を図る。			
事業内容	公共施設再配置計画に基づき、市内に 4 カ所ある人権教育集会所（豊科解放館、豊科町通り人権教育集会所、穂高人権教育集会所、堀金人権教育集会所）の譲渡又は廃止に向けて推進する。			
達成状況	<p>豊科解放館は、利用がほとんどなく建物の老朽化のため廃止した。</p> <p>他の 3 カ所の集会所については、譲渡又は廃止に向けて、不動産鑑定やアスベスト含有調査等を行った。</p> <p>また、豊科町通り人権集会所は、地元地区役員の方と協議を行い、地元の要望を聞く中で、譲渡又は廃止以外の選択肢も視野に入れ検討することになった。</p> <p>堀金人権教育集会所についても地元役員の方と連絡を取り、今後の協議の進め方について打ち合わせを行った。</p>			
事業の課題及び方向性	今後、3 カ所の人権教育集会所の譲渡又は廃止にあたり、関係団体及び地元地区の意見や要望を十分に考慮したうえで慎重に進める。			
自己評価	B			

事務事業	No.25	事務事業名： 体育団体等支援事業	R元年度決算額	11,014千円
事業の目的	市民のスポーツ振興を担う体育協会及びスポーツ少年団の活動助成や、競技力向上を目指す選手及び団体への激励金を交付することにより、市民の競技スポーツ活動の活性化を図る。			
事業内容	1 体育協会事業支援（対象事業費の2分の1以内で予算の範囲内の補助） 2 スポーツ少年団事業支援（対象事業費の3分の2以内で予算の範囲内の補助） 3 全国大会以上のスポーツ等大会に出場する個人・団体への激励金交付			
達成状況	<p>1 体育協会事業支援〈団体数：77団体 登録者数：5,918人〉 市民のスポーツ振興、健康体力づくりの推進、競技力向上に向けた事業に対し、体育協会活動への補助を行った。</p> <p>【主な内容】 （1）スポーツ教室（市体協・加入団体独自主催 計28教室、述べ6,199名参加）を開催し、スポーツの普及、向上を図ることができた。 （2）一般市民を対象とした健康体力づくり事業49大会、育成強化事業の各種競技95大会、その他研修会、救急救命講習会実施により指導者の育成、審判技術の向上を図ることができた。</p> <p>2 スポーツ少年団事業支援〈団体数：65団体 登録者数：1,585人〉 青少年スポーツ活動を通じた青少年健全育成及び交流を目的に、スポーツ少年団活動への補助を行った。</p> <p>【主な内容】 （1）令和元年度結団式に54単位団 約300名参加し、安曇野陸上連盟の指導者による基本動作の「走」を中心としたトレーニングを体験した。 （2）小学4年・6年対象に「運動適性テスト」を実施し、11単位団 72名の参加があり、発達期の身体の動きやスポーツの適性を知る機会となった。</p> <p>3 各種競技会及び発表会出場者激励金 件数：114件（内訳：全国大会：109件、世界大会：5件）</p>			
事業の課題及び方向性	<p>各スポーツ団体については、団体離れ、加入者も減少する中で、自主財源の確保が厳しい状況にある。中核的に市のスポーツ振興を担う各スポーツ団体は、市民スポーツの活性化に重要な役割を果たしているため、引き続き協議しながら事業内容に合った適正な補助金額の支出が必要と考える。</p> <p>また、令和9（2027）年には長野国体の開催が内々定し、開催地として少年女子バレーボール及びウエイトリフティングが内定している。よりいっそうの競技力や指導力向上に向け、資格取得の支援や研修会などの指導者の育成に対する取り組みが必要である。</p>			
自己評価	C			

事務事業	No.26	事務事業名： スポーツ振興事業	R元年度決算額	9,814千円																																																
事業の目的	<p>幼児期から身体を動かす楽しさや自発的に遊ぶ習慣を身につけること、また、初心者が運動を継続していくきっかけづくりとしてスポーツ教室等を実施し、スポーツ実施率の向上を目指す。また、スポーツを通しての交流や連帯感を共有し、スポーツの推進を図ることを目的とした「安曇野市民スポーツ祭」を開催する。</p>																																																			
事業内容	<p>1 スポーツ教室の開催 2 市民スポーツ祭の開催 3 市町村対抗駅伝大会・長野県縦断駅伝大会出場に伴う運営協力</p>																																																			
達成状況	<p>1 スポーツ教室の開催 (1) 子どもを対象とした主な教室(教室数：18教室 参加延べ数：9,457人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>教室名</th> <th>区分</th> <th>延べ参加者</th> <th>参加率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①親子ウキウキ体操教室(2教室×2回)</td> <td>2歳と3歳～未就園児</td> <td>1,508人</td> <td>79%</td> </tr> <tr> <td>②わんぱくGYM教室(2教室×2回)</td> <td>就園児：年中・年長</td> <td>1,054人</td> <td>83%</td> </tr> <tr> <td>③動きづくりの運動教室(2回)</td> <td>小学1～3年生</td> <td>312人</td> <td>84%</td> </tr> <tr> <td>④ファミリースポーツカフェ(7回)</td> <td>主に親子</td> <td>355人</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>⑤コオディネーション幼保指導者派遣事業</td> <td>就園児：年中・年長</td> <td>5,771人</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 18歳以上を対象とした主な教室(教室数：15教室 参加延べ数：1,796人)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>教室名</th> <th>区分</th> <th>延べ参加者</th> <th>参加率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①インターバル速歩講座(14回)</td> <td>40歳以上</td> <td>341人</td> <td>91%</td> </tr> <tr> <td>②ポッチャ講習会(3回)</td> <td>地区単位の団体</td> <td>144人</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>③障がい者スポーツ教室(6回)</td> <td>18歳以上</td> <td>各20人</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>④障がい者スポーツ体験会</td> <td>障がいの有無に関わらず</td> <td>116人</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>⑤サイクリング教室</td> <td>18歳以上</td> <td>74人</td> <td>84%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※参加率・・・参加者数に対する延べ教室出席人数</p> <p>2 有森裕子ランニングクリニックの実施 信州安曇野ハーフマラソン5回を記念し、マラソン参加者、指導者123人が参加</p> <p>2 市民スポーツ祭の開催 市民スポーツ祭実行委員会を組織し、10回記念事業として内容の企画から運営を行った。 6月30日(日)開会式、アスリート講演会、スポーツ体験等に延べ2,939人が参加 6月～12月にかけて種目別競技会(17種目)に2,136人が参加</p> <p>4 市町村対抗駅伝大会・長野県縦断駅伝大会出場に伴う運営協力など</p>				教室名	区分	延べ参加者	参加率	①親子ウキウキ体操教室(2教室×2回)	2歳と3歳～未就園児	1,508人	79%	②わんぱくGYM教室(2教室×2回)	就園児：年中・年長	1,054人	83%	③動きづくりの運動教室(2回)	小学1～3年生	312人	84%	④ファミリースポーツカフェ(7回)	主に親子	355人	100%	⑤コオディネーション幼保指導者派遣事業	就園児：年中・年長	5,771人	—	教室名	区分	延べ参加者	参加率	①インターバル速歩講座(14回)	40歳以上	341人	91%	②ポッチャ講習会(3回)	地区単位の団体	144人	100%	③障がい者スポーツ教室(6回)	18歳以上	各20人	100%	④障がい者スポーツ体験会	障がいの有無に関わらず	116人	100%	⑤サイクリング教室	18歳以上	74人	84%
教室名	区分	延べ参加者	参加率																																																	
①親子ウキウキ体操教室(2教室×2回)	2歳と3歳～未就園児	1,508人	79%																																																	
②わんぱくGYM教室(2教室×2回)	就園児：年中・年長	1,054人	83%																																																	
③動きづくりの運動教室(2回)	小学1～3年生	312人	84%																																																	
④ファミリースポーツカフェ(7回)	主に親子	355人	100%																																																	
⑤コオディネーション幼保指導者派遣事業	就園児：年中・年長	5,771人	—																																																	
教室名	区分	延べ参加者	参加率																																																	
①インターバル速歩講座(14回)	40歳以上	341人	91%																																																	
②ポッチャ講習会(3回)	地区単位の団体	144人	100%																																																	
③障がい者スポーツ教室(6回)	18歳以上	各20人	100%																																																	
④障がい者スポーツ体験会	障がいの有無に関わらず	116人	100%																																																	
⑤サイクリング教室	18歳以上	74人	84%																																																	
事業の課題及び方向性	<p>・運動体力の向上や運動好きな子どもを育成するため、「跳ぶ」、「走る」、「投げる」等の基本的な身体の動きを幼少期から学ぶ機会が必要と考える。</p> <p>・スポーツ教室の参加率は上昇しているが、教室の参加のみで終了してしまう傾向や、スポーツの多様化により種目に応じた指導者が必要となるため、サークル活動への加入促進や総合型地域スポーツクラブへの加入など自主的・継続的に活動しやすい環境を推進していく。また、ポッチャなど地区単位で実施可能なスポーツの普及に努めていく。</p>																																																			
自己評価	B																																																			

事務事業	No.27	事務事業名： 文化芸術振興事業	R 元年度決算額	4,546 千円
事業の目的	<p>子どもや高齢者、障がいのある人など、全ての市民がすぐれた文化芸術に接することができるよう、展覧会やコンサートなどの内容を充実するとともに鑑賞しやすい環境づくりを進める。</p> <p>市民の文化芸術活動が、文化芸術を受容・鑑賞するだけでなく、創作や発表へと発展し自己実現を図ることができる環境づくりを推進する。</p>			
事業内容	<p>「文化振興計画」に掲げられた諸施策の実現に向け諸事業を実施した。</p> <p>(1) 東京藝術大学との交流事業の開催 第1回：6月8日(土)・9日(日) 第2回：11月30日(土)・12月1日(日) 第3回：2月8日(土)・9日(日)</p> <p>(2) 能楽教室の開催 6月25日(火)：穂高西中学校 6月26日(水)：豊科東小学校</p> <p>(3) ちくに生きものみらい基金充当事業 安曇野市の子ども達が自然を学ぶ機会を作るために寄贈された基金を活用し、小中学校のクラス等が行う自然観察会で必要となるバスの運行補助や講師の手配を行った。自然観察会実施に合わせ校外に出かけた際には、市内の美術館・博物館の利用を奨励している。</p>			
達成状況	<p>(1) 東京藝術大学との交流事業 参加生徒数 286人(目標150人) 合同コンサート来場者数300人(目標400人)</p> <p>(2) 能楽教室 鑑賞者数470人</p> <p>(3) ちくに生きものみらい基金充当事業 実施件数 小学校10件・中学校1件・豊科公民館・豊科郷土博物館各1件 実施場所 長峰山・穂高クリーンセンター・アクアピア・国営アルプスあづみの公園 利用施設 田淵行男記念館・豊科郷土博物館・豊科近代美術館・飯沼飛行士記念館 天蚕センター 参加者数 のべ799人</p>			
事業の課題及び方向性	<p>・平成29年度に策定した「第2次安曇野市文化振興計画」に基づき、事業内容の充実や発展に向けて推進していきたい。</p>			
自己評価	B			

事務事業	No.28	事務事業名： 諸団体との協働事業	R 元年度決算額	7,136 千円
事業の目的	安曇野の風土と先人たちの営みによって培われ育まれてきた文化を土台に、新たな安曇野の文化、個性あふれる魅力的な文化を創造していくために、必要な環境の整備と文化を支える協働の仕組みづくりを推進する。			
事業内容	<p>諸団体への補助、協働による事業実施などを通じて、市民が多様な文化芸術に親しむ機会を創出し、豊かで潤いある市民生活の実現を目指した。</p> <p>(1) 第 20 回安曇野紙ヒコーキ競技大会 4月14日(日) 報償費：64,656 円</p> <p>(2) 第 15 回あづみの公園早春賦音楽祭 5月4日(土) 補助金：1,900,000 円</p> <p>(3) 第 56 回童謡まつり 5月5日(日) 補助金：500,000 円</p> <p>(4) 第 29 回信州安曇野能楽鑑賞会 8月24日(土) 補助金：2,100,000 円</p> <p>(5) 『安曇野文化』刊行 第 31～34 号発行 補助金：1,900,000 円</p> <p>(6) 美術館博物館連携事業</p> <p>ア 美術館等連携事業印刷物等作成・年間行事予定表デザイン印刷業務委託料 174,744 円</p> <p>イ スタンプラリー・ギャラリートークリレー・学校ミュージアムほか 学校ミュージアム 12月18日(水)：明科中学校 12月19日(木)：明南小学校</p> <p>(7) 安曇野市古民家調査(信州大学工学部)：496,925 円</p> <p>(8) 平成 27・29 年に協働事業として制作した「よみがえる安曇野」第 1・2 集について、出前講座メニューとして実施。</p>			
達成状況	<p>諸団体との協働事業</p> <p>(1) 第 20 回安曇野紙ヒコーキ競技大会 参加者数 22 人</p> <p>(2) 第 15 回あづみの公園早春賦音楽祭 来場者数 22,600 人</p> <p>(3) 第 56 回童謡まつり 来場者数 450 人</p> <p>(4) 第 29 回信州安曇野能楽鑑賞会 来場者数 470 人</p> <p>(5) 『安曇野文化』刊行 第 31～34 号発行</p> <p>(6) 美術館博物館連携事業</p> <p>ア 美術館等連携事業印刷物等作成 市立美術館・博物館の年間行事予定一覧表を全校児童・生徒に配布。</p> <p>イ ギャラリートークリレー・学校ミュージアムほか、文化庁の補助金を得て、市内公私立の美術館博物館で実行委員会を組織して諸事業を実施。児童の利用促進に結び付けることができた。計 1,799 人</p> <p>(7) 安曇野市民家調査(信州大学工学部)</p> <p>ア 平成 24～26 年度は安曇野市の建築士会、28 年度からは信州大学工学部と連携し実施をしてきた安曇野の民家調査を総括した『安曇野の民家』を発刊した。</p> <p>(8) 「よみがえる安曇野」上映会 13ヶ所</p>			

事業の課題及び方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各事業とも、合併以前より各町村が行ってきた文化事業を継続して行っており、マンネリ傾向にある。「信州安曇野薪能事業」は会場となる龍門淵公園周辺の整備工事が終わり、今後、屋外での薪能公演とするか検討が必要である。</li> </ul>
自己評価	B

事務事業	No.29	事務事業名： 財政支援団体への補助事業	R 元年度決算額	9,466 千円
事業の目的	<p>安曇野の風土と先人たちの営みによって培われ育まれてきた文化を土台に、新たな安曇野の文化、個性あふれる魅力的な文化を創造していくために、必要な環境の整備と文化を支える協働の仕組みづくりを推進する。</p> <p>安曇野市の文化振興の一翼を担う組織として、市が出捐する公益財団法人安曇野文化財団の自主事業の充実を図る。</p>			
事業内容	<p>財政支援団体への補助金交付</p> <p>(1) 公益財団法人安曇野文化財団運営補助 補助金：8,116,000 円</p> <p>(2) 一般財団法人井口喜源治記念館運営補助 補助金：1,350,000 円</p>			
達成状況	<p>1 財政支援団体の活動状況</p> <p>(1) 公益財団法人安曇野文化財団運営補助 生活工芸品の管理・活用、財団の管理運営（事務局業務）を実施した。</p> <p>(2) 一般財団法人井口喜源治記念館運営補助 井口喜源治の遺産を大切に保管・管理し、各種事業を実施した。</p>			
事業の課題及び方向性	<p>・財政支援団体の活動にあたっては、事業内容に合った適正な補助金額の支出が必要。事業実施にあたって、各団体と連絡を密にし、効果的な事業推進を図る。</p>			
自己評価	B			



事務事業	No.30	事務事業名： 博物館・美術館等の管理運営事業	R元年度決算額	(指定管理料 81,220千円) 137,168千円																																								
事業の目的	<p>市民ニーズに沿い、各施設の個性や特徴を活かした魅力ある企画を実現できるよう、利用形態や運営方針の改善に努めるほか、施設間の連携強化を図る。</p> <p>市民が幅広く文化の魅力を理解し、豊かな感性や想像力を養うことができるように、学習・体験機会の充実を図る。</p>																																											
事業内容	<p>1 豊科近代美術館・田淵行男記念館・飯沼飛行士記念館・穂高陶芸会館・臼井吉見文学館・高橋節郎記念美術館・豊科郷土博物館・貞享義民記念館・穂高郷土資料館・文書館等の管理運営を行う。</p> <p>2 博物館・美術館等の管理運営、資料の収集については下記で審議。</p> <p>(1) 博物館協議会 登録博物館4館及び類似施設5館の管理運営状況等について協議。全3回</p> <p>(2) 美術資料等選定委員会：美術資料の収集について協議。全2回</p> <p>3 「新市立博物館構想」を策定し、今後の安曇野市の博物館等の方向性を規定。</p>																																											
達成状況	<p>1 博物館等の運営状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施設名</th> <th>運営</th> <th>指定管理料</th> <th>入館者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>豊科近代美術館</td> <td rowspan="5">(公財) 安曇野文化財団</td> <td>37,295,000円</td> <td>21,722人</td> </tr> <tr> <td>田淵行男記念館</td> <td>13,800,000円</td> <td>7,219人</td> </tr> <tr> <td>飯沼飛行士記念館</td> <td>2,132,000円</td> <td>1,144人</td> </tr> <tr> <td>穂高陶芸会館</td> <td>7,191,000円</td> <td>(体験) 3,253人 (見学) 450人</td> </tr> <tr> <td>高橋節郎記念美術館</td> <td>20,802,000円</td> <td>9,701人</td> </tr> <tr> <td>臼井吉見文学館</td> <td>直営</td> <td>-</td> <td>264人</td> </tr> <tr> <td>豊科郷土博物館</td> <td>直営</td> <td>-</td> <td>10,045人</td> </tr> <tr> <td>貞享義民記念館</td> <td>直営</td> <td>-</td> <td>4,653人</td> </tr> <tr> <td>穂高郷土資料館</td> <td>直営</td> <td>-</td> <td>977人</td> </tr> <tr> <td>文書館</td> <td>直営</td> <td>-</td> <td>1,494人※</td> </tr> </tbody> </table> <p>※研修会・内覧会・講座・講演会・電話での相談等を含む利用者数</p> <p>2 目標数値等 貞享義民記念館 貸出施設(企画展示室)の稼働率(年間実使用日数/使用可能日数):77.46% 貸出施設(研修室)の稼働率(年間実使用时间/使用可能時間):13.89%</p>				施設名	運営	指定管理料	入館者数	豊科近代美術館	(公財) 安曇野文化財団	37,295,000円	21,722人	田淵行男記念館	13,800,000円	7,219人	飯沼飛行士記念館	2,132,000円	1,144人	穂高陶芸会館	7,191,000円	(体験) 3,253人 (見学) 450人	高橋節郎記念美術館	20,802,000円	9,701人	臼井吉見文学館	直営	-	264人	豊科郷土博物館	直営	-	10,045人	貞享義民記念館	直営	-	4,653人	穂高郷土資料館	直営	-	977人	文書館	直営	-	1,494人※
施設名	運営	指定管理料	入館者数																																									
豊科近代美術館	(公財) 安曇野文化財団	37,295,000円	21,722人																																									
田淵行男記念館		13,800,000円	7,219人																																									
飯沼飛行士記念館		2,132,000円	1,144人																																									
穂高陶芸会館		7,191,000円	(体験) 3,253人 (見学) 450人																																									
高橋節郎記念美術館		20,802,000円	9,701人																																									
臼井吉見文学館	直営	-	264人																																									
豊科郷土博物館	直営	-	10,045人																																									
貞享義民記念館	直営	-	4,653人																																									
穂高郷土資料館	直営	-	977人																																									
文書館	直営	-	1,494人※																																									
事業の課題及び方向性	<p>令和元年度より臼井吉見文学館を直営とし、高橋節郎記念美術館に指定管理者制度を導入した。施設間の連携強化を図りながら、「新市立博物館構想」に基づき、引き続き管理運営体制の見直しや、一部の施設の統廃合について検討したいと考える。</p>																																											
自己評価	B																																											

【学識経験者による個別の事務事業に対する意見、提言等】

No.	事務事業	意見・要望等
1	いじめ・不登校対策事業	引き続き、教育部局と福祉部局等との連携を密にしていただき、努力いただきたい。
2	教育支援センター運営事業	昨年豊科公民館大ホール開催の作業療法士の講演会は、「幼少期からこういう育て方をすれば、こういう子どもになっていく」という大変勉強になる講演会であった。保育士、教師、指導者、保護者も対象とした専門家によるこのような講演がより多く必要である。コロナ禍であるので実施は難しいかと思うが、小さいお子さんを持つ保護者に対し早い時期から啓発していただくことが大事である。
		中間教室は、自己肯定感を高めたり、エネルギーを蓄積できる大事な取組と思うので是非力を入れて、学校に復帰できるように努めていただきたい。
5	学校支援職員及びスクールソーシャルワーカー等の配置・派遣事業	安曇野市の事業の目玉でもあると思う。今後も継続して力を入れてもらいたい。 支援員は教員のように評価されている立場ではないこともあって、時々研修をしてスキルを深めていかなければならない立場だと感じている。学級に入るのであれば、本当に先生の手助けとなる支援のできるような本人の意識の向上とできれば研修をお願いしたい。
10	通級指導教室運営事業	通級指導教室の設置は、先進的な取組であり評価できる。今後も継続して力を入れてもらいたい。
12	学校安全対策事業	今年は、マイマイガが大量発生する年と言われている。学校でも注意して、早めの駆除をお願いしたい。
13	小・中学校施設改修事業	学校で初めてエアコンの効いた部屋で支援活動をさせていただき本当にありがたいと感じる。 ただし、電気や水がふんだんに使えることが当たり前だという意識ではなくて、感謝するという意識を小さい時から持つことが大事ではないか。例えば、「保護者がリサイクルセンターに行く時に子どもも必ず連れていく」ということも必要と考える。 グローバルな人間を輩出することも大切なことと思うが、足元を見れる子ども達を育てていく必要がある。

15	青少年健全育成事業	成人式の記念品について、節約できるものは節約していくという方向で検討していただいているようなので、今後も続けていただきたい。
16	生涯学習講座実施事業	<p>学校開放講座について生徒が講師になったとあるが、この生徒には、どんどん活躍いただいて、多くの市民の皆さんに生徒の能力や技術を広げて行ってほしい。</p> <p>生徒には、自分の得た技術を市民の皆さんに披露していただき、更に農業大学等へ進んで技術を磨いて日本の将来の農業のために頑張ってもらいたい。</p> <p>市民大学講座において、幅広いテーマを企画したために若年層の人達の参加が多く見られたということは、とても良いことである。人集めは難しいが、多くの人がどういふものを求めているかということを検討して企画していただきたい。</p>
17	社会教育団体支援事業	<p>芸文協は高齢で辞めていく人たちが出てくるが、新しく入ってくる人がなかなかいない。</p> <p>芸文協の在り方、また一本化していくうえで、いろいろな縛りもあるかもしれないが、一緒にやっていくことの楽しさを伝えることができれば、入ってくれるのではないか。</p> <p>考え方を変えていかないと、先細りになってしまう。</p> <p>人口5万の塩尻市、人口2万の大町市が文化会館を持っているが、人口9万の安曇野市にはない。大人数を入れるだけのキャパが無くて残念である。</p> <p>若者を取り込むためにも、バンドの演奏とか大きなイベントを(大きな会場で)して盛り上がるということも必要ではないか。</p>
18	放課後・家庭教室推進事業	「コーディネーター、サポーターの固定化、高齢化傾向があるため、保護者世代の参加を進めた結果、令和元年度は20人の増となった。」とあり、評価する。保護者世代の参加を今後は是非続けていただきたい。
19	児童館運営事業	<p>児童館の運営について、指定管理者における放課後児童支援員等の増員とあるが、支援員は、指定管理者に従業員、社員として採用されて、児童館等に派遣されていくという形の方が本人にとっても、福利厚生関係等も保証されるので良い。指定管理制度をさらに充実していただきたい。</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大防止による小学校休業への対応で、細心の注意を払って運営していただいたことに対して敬意を表す。</p>

20	中央公民館事業	<p>総合芸術展の周知について、いろいろな広報等でお知らせしているが、イベントの期間中に取材して新聞に掲載される日で終了というとなかなか行くことが難しい。期間の最初の方で取材してもらおうなど、マスコミをうまく使う工夫もしていただきたい。</p>
22	図書館活動の推進事業	<p>3か所の図書館を利用させていただいた。いろいろ工夫されていて、特にコロナの関係ではいろんな対策を取っていただいております。このコロナ対策の期間は、冊数もたくさん借りることができ、期間も長くさせていただいております。また図書館の職員の対応が非常に良かった。友人にも大変好評であったので、今後も継続してお願いしたい。</p>
26	スポーツ振興事業	<p>コオディネーション幼保指導者派遣事業については、保育士の方から非常に良かったということを知っている。幼児期から体を動かすことの楽しさとか経験が大変貴重であると思うので続けていってほしい。</p> <p>近隣の大学と連携協定を結んでいただくということも、人材確保の面でも良い。</p>
27	文化芸術振興事業	<p>東京藝大との交流、合同コンサートについては、コロナ禍で今年度の開催は困難とのことだが、音楽を学んでいる子どもの発表の場がなくなっているため、そのような機会の実現を検討してほしい。</p>